



SC430
取扱説明書



Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。



TABLE OF CONTENTS

目次

1 運転する前に

運転するまでに必要となる操作、注意が説明してあります。

2 運転するときに

走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。

3 室内装備の使い方

室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。

4 お手入れのしかた

車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。

5 トラブルが起きたら

故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。

6 車両仕様

車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。

さくいん

本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

1 運転する前に

1-1. キーの取り扱い	
キー	16
1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、 ロックのしかた	
ワイヤレスリモコン	17
ドア	19
トランク	24
1-3. シート、ハンドル、ミラーの 調整のしかた	
フロントシート	27
マイコンプリセットドライビング ポジションシステム	29
フロントヘッドレスト	31
シートベルト	33
ハンドル	39
自動防眩ミラー	40
ドアミラー	41
1-4. ドアガラス・メタルトップの 開け方、閉め方	
パワーウィンドウ	44
電動開閉式メタルトップ	47
1-5. 給油のしかた	
給油口の開け方	51
1-6. 盗難防止システム	
エンジンイモビライザー システム	54
オートアラーム	55

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢	57
SRS エアバッグ	58
チャイルドシートの取り付け	67

2 運転するときに**2-1. 運転のしかた**

運転にあたって	76
エンジン（イグニッション） スイッチ	83
オートマチックトランス ミッション	85
方向指示レバー	90
パーキングブレーキ	91
ホーン（警音器）	92

2-2. メーターの見方

計器類	93
表示灯／警告灯	95
トリップインフォメーション 表示	97

**2-3. ライトのつけ方・ワイパーの
 使い方**

ライトスイッチ	98
フォグライトスイッチ	101
ワイパー&ウォッシュャー	102

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	105
運転を補助する装置	109

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	114
寒冷時の運転	115

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

オートエアコン	120
リヤウインドウデフォッガー (曇り取り)	126

3-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	127
・インテリアライト	128
・パーソナルライト	128

3-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	129
・グローブボックス	130
・センターコンソール ボックス	131
・コインボックス	133
・カップホルダー	134
・小物入れ	135

3-4. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	136
時計	137
灰皿	138
シガレットライター	139
アクセサリソケット	140
シートヒーター	141
フロアマット	142
トランク内装備	143

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	146
内装の手入れ	148
タイヤについて	151

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	159
ガレージジャッキ	161
電球（バルブ）の交換	163
ヒューズの点検、交換	167
ワイヤレスリモコンの 電池交換	176
ウォッシュャー液の補給	178
エアコンフィルターの交換	179

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

非常点滅灯	182
発炎筒	183
けん引について	185

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	188
パンクしたときは (ランフラットタイヤを除く) ...	195
パンクしたときは (ランフラットタイヤ)	203
エンジンがかからないときは ...	204
シフトレバーがシフト できないときは	205
キーを無くしたときは	206

バッテリーがあがったときは ... 207
オーバーヒートしたときは 210
スタックしたときは 212
メタルトップが閉まらない
ときは 213

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料、オイル量など) 226

6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 231

6-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 233

さくいん

略語一覧 236

五十音順さくいん 237

症状別さくいん 245

1

2

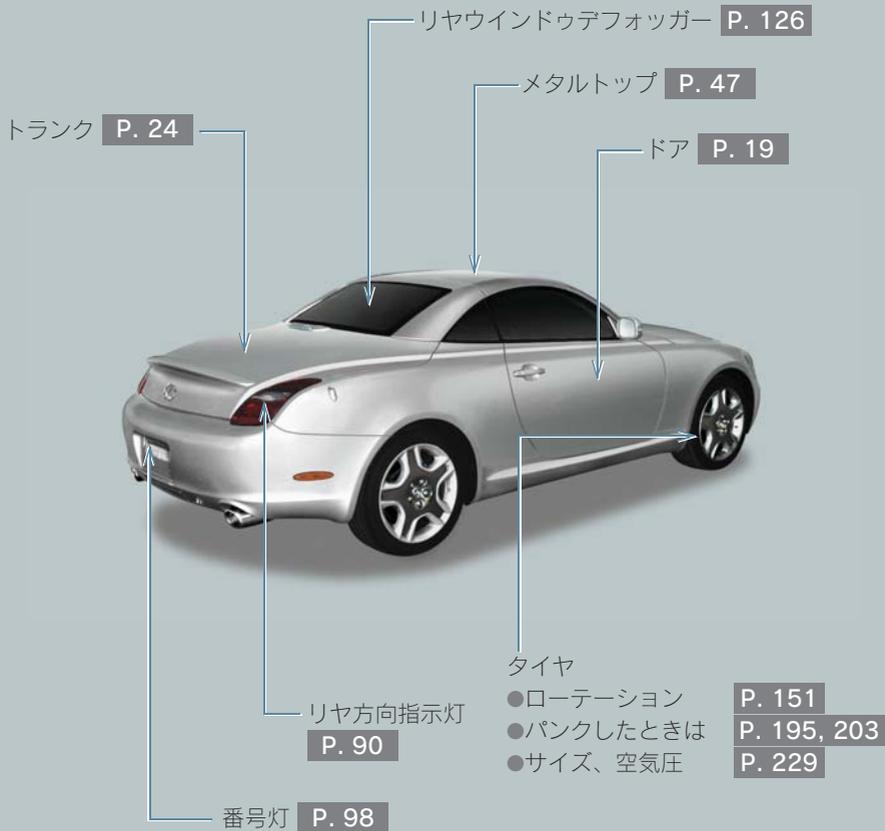
3

4

5

6







A



インテリアライト/
パーソナルライト P. 128

サンバイザー/
バニティミラー P. 136

自動防眩ミラー P. 40

a03a003a

B

▶ 運転席側



ドアロックスイッチ P. 19

ウインドウロックスイッチ P. 44

パワーウインドウスイッチ P. 44

a03a004a

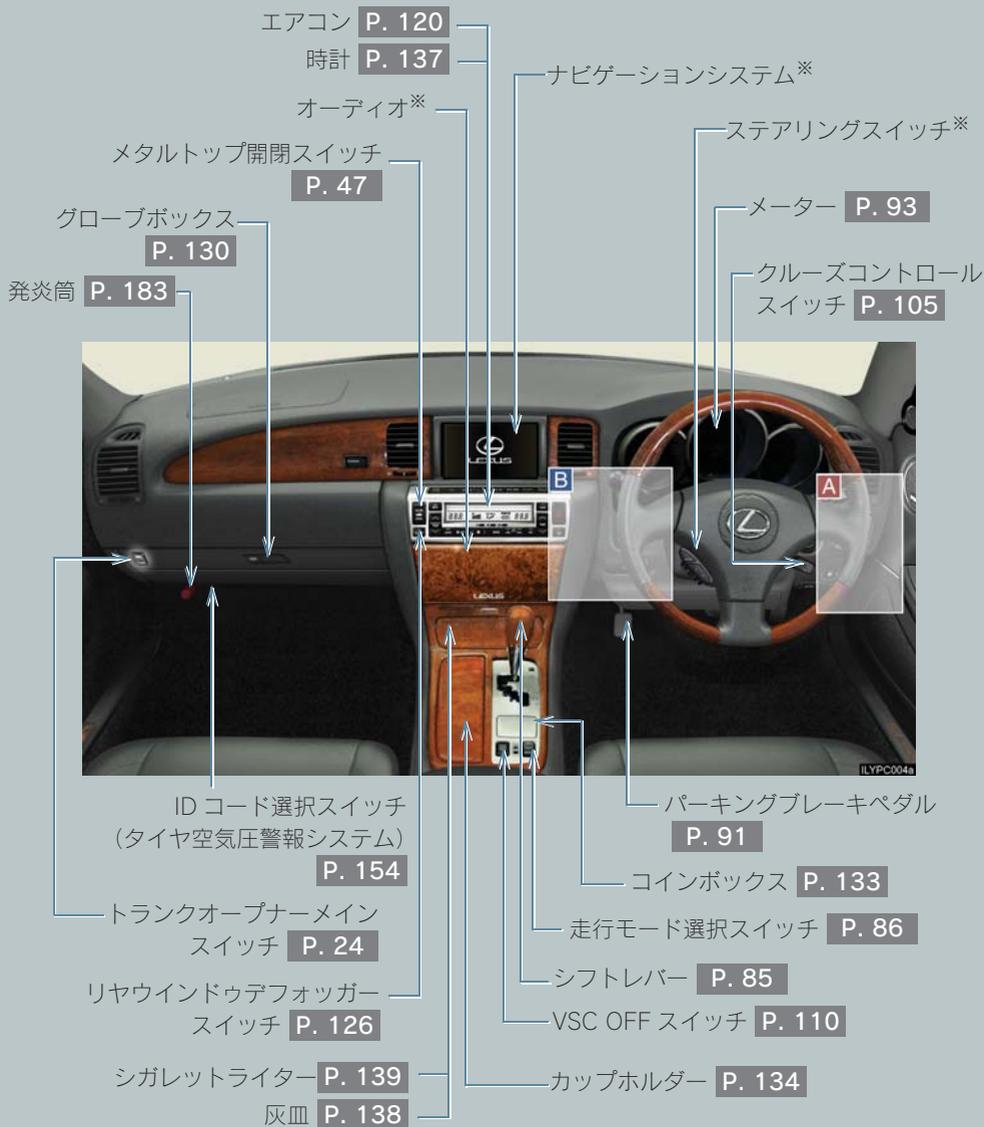
▶ 助手席側

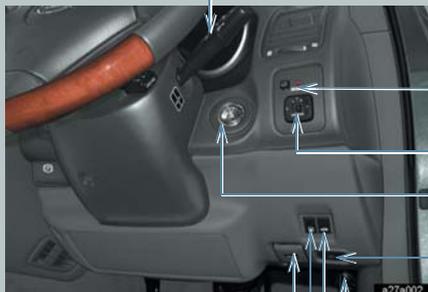


ドアロックスイッチ P. 19

パワーウインドウスイッチ P. 44

a03a011



A

- ライトスイッチ **P. 98**
- 方向指示レバー **P. 90**
- フォグライトスイッチ **P. 101**

- セキュリティインジケータ **P. 54, 55**
- ドアミラースイッチ **P. 41**
- エンジン（イグニッション）スイッチ **P. 83**
- AFS OFF スイッチ **P. 99**

- ボンネットオープナー **P. 159**
- 給油口オープナー **P. 51**
- トランクオープナー **P. 24**

- 初期化スイッチ
（タイヤ空気圧警報システム）
P. 153

B

- 非常点滅灯スイッチ **P. 182**

- ワイパー&ウォッシャースイッチ **P. 102**

- オドメーター/トリップメーター
切り替えボタン **P. 93**
- トリップメーターリセットボタン **P. 93**

- ハンドル位置調整スイッチ **P. 39**

- メーター照度調整スイッチ **P. 94**

- パーキングブレーキ解除レバー **P. 91**

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容が車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備や色と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子様をのせるときは

お子様を車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子様が車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故により、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車にお子様をのせる場合は、お子様の安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→ P. 67)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

 スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

- 1-1. キーの取り扱い
 - キー 16
- 1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた
 - ワイヤレスリモコン 17
 - ドア 19
 - トランク 24
- 1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた
 - フロントシート 27
 - マイコンプリセットドライビング
ポジションシステム 29
 - フロントヘッドレスト 31
 - シートベルト 33
 - ハンドル 39
 - 自動防眩ミラー 40
 - ドアミラー 41
- 1-4. ドアガラス・メタルトップの
開け方、閉め方
 - パワーウィンドウ 44
 - 電動開閉式メタルトップ 47
- 1-5. 給油のしかた
 - 給油口の開け方 51
- 1-6. 盗難防止システム
 - エンジンイモビライザー
システム 54
 - オートアラーム 55
- 1-7. 安全にお使いいただく
ために
 - 正しい運転姿勢 57
 - SRS エアバッグ 58
 - チャイルドシートの
取り付け 67

1-1. キーの取り扱い

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。



- 1 マスターキー
- 2 サブキー
- 3 キーナンバープレート

知識

■ マスターキーとサブキーの使い分け

- 普段はマスターキーをご使用ください。
- 駐車場などでキーを預けるときは、マスターキーでグローブボックスやセンターコンソールボックス（下段）を施錠した上で、サブキーを預けてください。

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一キーを紛失した場合、レクサス販売店でキーナンバーと残りのマスターキーから新しいキーが作製できます。

■ 航空機に乗るときは

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■ キーの故障を防ぐために

- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠、トランクを解錠できます。



- 1 全ドア施錠
- 2 全ドア解錠
- 3 サイドウィンドウ開く
(長押し約 3 秒以上)
- 4 トランク解錠
(長押し約 1 秒)

知識

■ 作動の合図

ドア : ブザー音と非常点滅灯の点滅で知らせます。
(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

サイドウィンドウ : 開きはじめるときにブザー音で知らせます。

トランク : ブザー音で知らせます。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、施錠されます。

■ 電池の消耗について

スイッチを押しても作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→ P. 176)

■ 半ドア防止ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンによりドアを施錠すると、オートアラーム (盗難警報システム) が設定されます。(→ P. 55)

■機能が正常に働かないおそれのある状況

以下のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンはブザー音の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧→P. 231)

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

ワイヤレスリモコンやキー、ドアロックスイッチ、ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

■ ワイヤレスリモコン

→ P. 17

■ ドアロックスイッチ

▶ 運転席



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

▶ 助手席



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ キー



1 全ドア施錠

(車両前側にまわす)

2 サイドウィンドウ閉まる

(施錠側にまわしたまま保持)

3 全ドア解錠

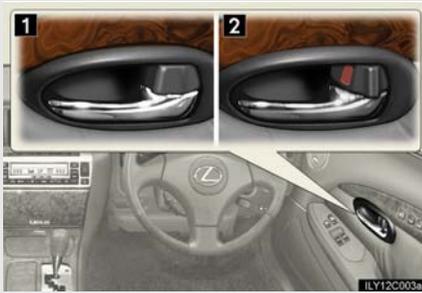
(車両後側にまわす)

4 サイドウィンドウ開く

(解錠側にまわしたまま保持)

オートアラームが設定されているときにキーを差し込んで解錠すると警報作動します。(→ P. 55)

■ ロックレバー



1 ドア施錠

2 ドア解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても車内のドアハンドルを引くと開きます。

キーを使わずに外側から施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 車外のドアハンドルを引き上げたままドアを閉める

オートドアロック・アンロック機能

以下の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	エンジンスイッチを“LOCK”にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

以下の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

手順 1 すべてのドアを閉め、エンジン スイッチを“ON”にする（その後 20 秒以内に手順 2 をおこなう）



シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの**1** または**2**を約 5 秒間押しはなす

設定または解除をおこなう機能によってシフトレバーとスイッチの位置を以下の表から選択します。

機能	シフトレバーの位置	スイッチの位置
シフト連動オートロック	P	1
シフト連動オートアンロック		2
車速感应オートロック	N	1
運転席ドア連動オートアンロック		2

設定または解除の切り替え操作が完了すると、すべてのドアが施錠された後、解錠されます。

1

運転する前に

 知識

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコン以外で施錠した場合、オートアラーム（盗難警報システム）は設定されません。ワイヤレスリモコンによる施錠をおすすめします。
（→ P. 55）

■ キー閉じ込み防止機能

エンジン スイッチにキーが差し込まれているときは、ドアを開けた状態からドアロックスイッチやロックレバーによる施錠はできません。

■ キー抜き忘れ防止ブザー

エンジン スイッチが“LOCK” または“ACC” のとき、キーを差したまま運転席ドアを開けると鳴ります。

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解除されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ 販売店で設定可能な機能

施錠・解錠方法を変更することができます。（カスタマイズ一覧→ P. 231）

**警告****■ 事故を防ぐために**

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた トランク

トランクオープナーやワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには

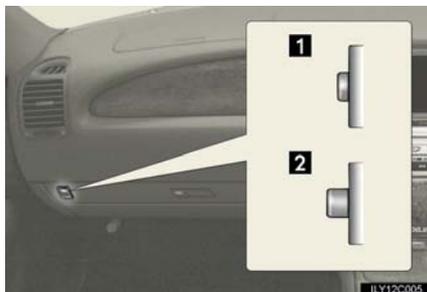


トランクオープナースイッチを押してトランクのロックを解除する

■ 車外からトランクを開けるには

- ▶ ワイヤレスリモコン
→ P. 17

トランクオープナーを使用できなくするには



グローブボックス内にあるメインスイッチを、使用不可能にする

- 1 使用可能
- 2 使用不可能

駐車場などでキーを預けるときは

手順 1 メインスイッチを使用不可能にする

手順 2 マスターキーでグローブボックスとセンターコンソールボックス（下段）を施錠する

センターコンソールボックス（下段）には、非常用トランク解錠ワイヤーがあります。（→ P. 131, 213）

手順 3 サブキーを渡す

 **知識**
■ トランクライト

トランクを開けると、トランクライトが点灯します。

■ トランクグリップ

トランクを引き下げるときにお使いください。

 **警告**
■ 走行中の警告

走行中はトランクを閉じてください。

開けたままにしておくと、荷物が投げ出されたり、排気ガスが車内に入るおそれがあります。

■ お子様をのせるときは

お子様だけを車内に残さないでください。

お子様が車内やトランクの内側から施錠してしまい、閉じ込められて、過熱や窒息などにより生命にかかわるような重大な健康障害を受けるおそれがあります。

警告

■ トランクを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



● 周囲の安全を確かめ、トランクで指などを挟まないよう十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● お子さまにはトランクの開け閉めをさせないでください。手、頭、首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● 傾斜地では平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくくなる場合があります。また急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。指などを挟まないよう十分注意してください。

● 強風時の開閉には十分注意してください。

トランクが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあり危険です

■ トランクを使用するときは

トランクが全開状態で静止していることを確認して使用してください。とくに傾斜地では開いたあとにトランクが落ちる場合があります危険です。

注意

■ ダンパーステアについて

トランクにはトランクを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

● ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない

● ロッド部を軍手などでふれない

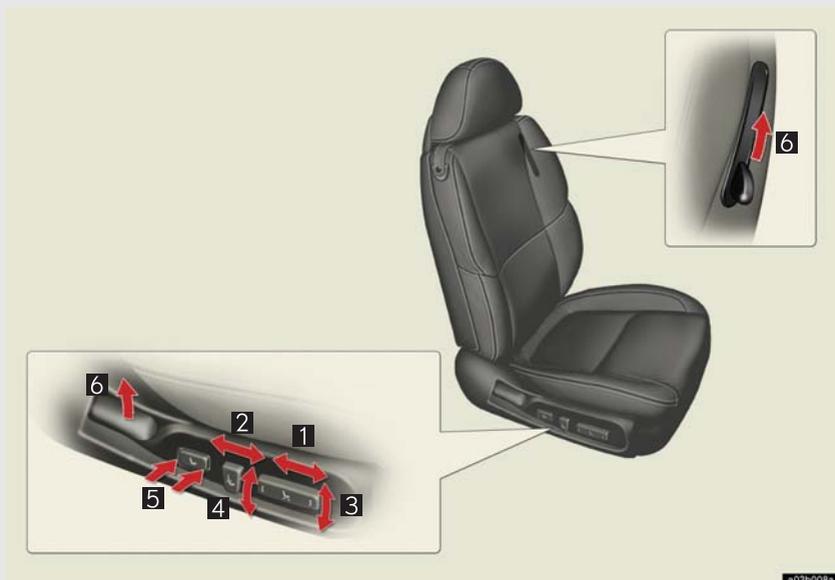
● トランクにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない

● ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた フロントシート

1

運転する前に



- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 クッション前端的上下調整
- 4 シート全体の上下調整
- 5 腰部硬さ調整（ランバーサポート）
- 6 シートバック前倒しレバー

知識

■ 前後位置／リクライニング連動機構

シートの前後位置やリクライニングを後方に一定以上操作すると、リヤシートに干渉しないように連動して作動します。

■ 警告ブザー

バッテリーとの接続が断たれたときは、後方に操作するとブザーが鳴ります。ブザーが鳴った場合は初期設定をしてください。（→ P. 28）

初期設定のしかた

手順 1 前後位置（またはリクライニング）を最前端まで移動させる

“ピッ”と音が鳴ります。

手順 2 手順 1 で操作していないリクライニング（または前後位置）を最前端まで移動させる

“ピー”と音が鳴り初期設定が完了します。

（運転席、助手席それぞれのシートで初期設定を行う必要があります。）

前後位置／リクライニング連動機構キャンセルのしかた

前後位置／リクライニング連動機構が故障したときなどに、キャンセルして一時的に独立調整することができます。

キャンセルするときは、前後位置またはリクライニング調整を前後いずれかの方向に終点まで移動させ、そのまま約 15 秒間スイッチを操作し続けます。

警告

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ シートバックを前倒しから戻したときは

シートバックを前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

■ 走行中は

絶対にシートバック前倒しレバーを操作しないでください。

マイコンプリセットドライビングポジションシステム

運転席スイッチでは、運転席シート・ハンドル・ドアミラー位置を2パターン記憶できます。

助手席スイッチでは、助手席シートの位置を2パターン記憶できます。

■ シート位置などを記憶させるには

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認してエンジンスイッチを“ON”にする

手順 2 シート・ハンドル・ドアミラー位置を調整する



セットスイッチを押したまま同時に記憶させたいスイッチ (①か②) をブザーが鳴るまで押し続ける

■ シート位置などを呼び出すには



- 1 シフトレバーが P または N で車が停止していることを確認する
- 2 エンジンスイッチが“ON”になっていることを確認する
- 3 ①または②のスイッチを押す

 知識

■ 記憶させたポジションを変更するときは

手順 1 変更させたい位置にシートなどを調整する

手順 2 セットスイッチを押したまま同時に記憶させたいスイッチ（①か②）をブザーが鳴るまで押し続ける

■ 乗車前に呼び出すには

ドアを開け約 30 秒以内に呼び出したいスイッチを押します。
(ハンドル位置はエンジン スイッチにキーを差し込むと調整されます。)

■ 呼び出し中に作動を中止させるには

セットスイッチまたは①か②のいずれかのスイッチを押します。
シート調整スイッチのいずれかを操作すると、シートの作動のみ中止します。

■ バッテリーとの接続が断られたときは

記憶させていたポジションは消去されます。再度セットしてください。
マイコンプリセットドライビングポジションシステムは、フロントシートの前後位置／リクライニング連動機構が初期設定されていないと作動しません。初期設定を先に行ってください。(→ P. 28)

 警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた フロントヘッドレスト



上下調整

- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



前後調整

ヘッドレストをつかみ、前後に傾けます。

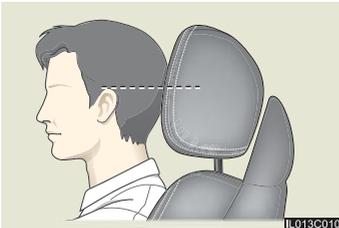
知識

■ヘッドレストを取りはずすときは



解除ボタンを押しながら引き上げます。

■ヘッドレストの高さについて



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるように調整してください。

警告

■ヘッドレストについて

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



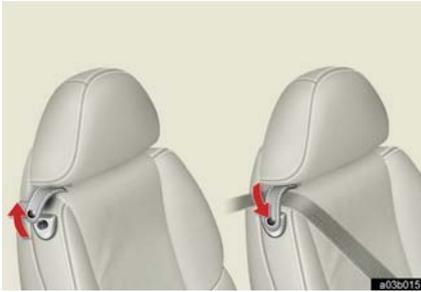
- 1 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれない
ようにしてください。
- 2 腰部ベルトを必ず腰骨のできる
だけ低い位置に密着させる
- 3 背もたれを調整し、上体を起こ
し、深く腰かけて座る
- 4 ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



- 1 固定
“カチッ”と音がするまで差し込みます。
- 2 解除
解除ボタンを押します。

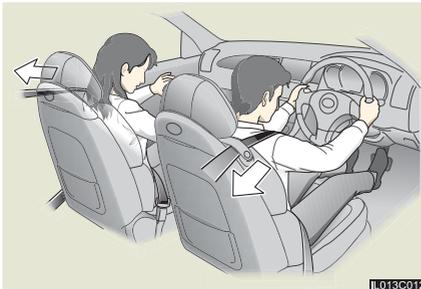
シートベルトガイド



シートベルトガイドを使用すると、フロントシートを最前方付近に調整したときに、シートベルトを引き出しやすくなります。

リヤシートへ乗り降りするときは、シートベルトガイドからシートベルトをはずします。

フロントシートベルトプリテンショナー



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確認します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

リヤシートベルトホルダー



リヤシートベルトを使用しないときはホルダーで固定し、使用するとき必ずホルダーからベルトをはずしてください。

知識

■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。

急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ チャイルドシート固定機構付きシートベルト

後席の肩部ベルトは、いっぱいまで引き出してから戻すと、その位置で固定し引き出せなくなります。これは、チャイルドシートを固定するための機構です。ベルトを一度完全に巻き戻してからもう一度引き出せば解除できます。

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子様のシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子様の場合は、お子様の体に合ったチャイルドシートを使用してください。
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子様の場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 33)

■ シートベルトプリテンショナーについて

- 助手席に乗員がいないと、助手席のシートベルトプリテンショナーは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれたりシートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席のシートベルトプリテンショナーが作動することがあります。
- シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

 **警告**

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを必ず正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子様でも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子様はリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでそのシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときに、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトは交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし・分解・廃棄などはレクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、シートベルトがロックされ、引き出すことも巻き取ることもできなくなります。作動後、シートベルトは再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。



警告

■ シートベルトガイドを使うときは

- ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたまま使用しないでください。
- フロントシートを後方付近に調整したときは、シートベルトガイドを使用しないでください。ベルトがシートベルトガイドにひっかかったり、巻き取らなくなる場合があります。

■ リヤシートベルトを使うときは

必ずホルダーからベルトをはずしてください。

■ チャイルドシート固定機構付きシートベルトについて

お子様をチャイルドシート固定機構付きシートベルトで遊ばせないでください。誤って作動させ、万一、ベルトが首に巻きついた場合、ベルトを引き出すことができなくなり、窒息など、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

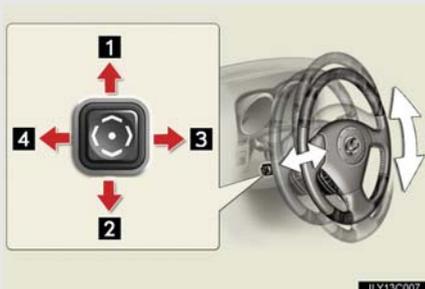
万一、誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ ジュニアシートについて

- ジュニアシートをリヤ席に取り付けるときは、チャイルドシート固定機構が作動しないようにするため、肩部ベルトをいっぱいまで引き出さないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子様の肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

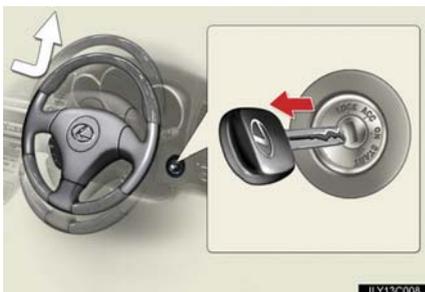
1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ハンドル

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき、ハンドル位置を、運転しやすく調整できます。



- 1 上がる
- 2 下がる
- 3 手前に動く
- 4 前方に動く

オートチルトアウェイ&オートリターン機構



エンジン スイッチからキーを抜くと乗降がしやすくハンドルが移動します。

キーを差し込むと、記憶した位置に戻ります。

この機能は解除することができます。

(→ P. 232)

知識

■ ハンドルが調整できなくなる場合

調整スイッチは、キーを“LOCK”の位置にしたまま30分経過すると、操作できなくなります。再び作動させるには、エンジン スイッチを“ON”にするか、いったんキーを抜いて再度差し込みます。

警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた 自動防眩ミラー

インナーミラーとドアミラーは“AUTO”モードにしておくと、後続車のヘッドライトの眩しさの度合いにより、自動的に防眩機能が作動します。



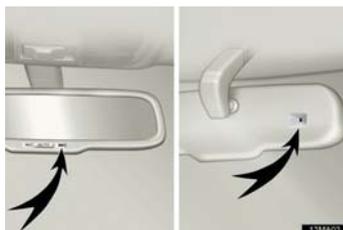
1 AUTOモードのON / OFF切り替え

ON のときはインジケータが点灯します。

エンジンスイッチを“ON”にすると常にAUTOモードになっています。

知識

■ センサーの誤作動防止



インナーミラーには周囲光センサーがあります。カバーなどでおったり触ったりすると誤作動の原因となります。

警告

■ 走行中の警告

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

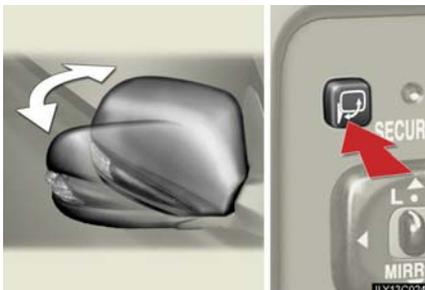
1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。



- 1 ミラーを選ぶ
(L:左、R:右)
- 2 スイッチを押して鏡面の角度を
上下左右方向に調整する

ドアミラーを格納するときは



ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、元の位置に戻ります。

知識

■ ドアミラーの作動条件

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(→ P. 126)

■ ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度を登録すると、自動で調整されます。(→ P. 29)

■ 自動防眩機能

インナーミラーを AUTO モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が働きます。(→ P. 40)

ワイドビュードアミラー



ワイドビュードアミラーは、境界線の内側と外側で曲率をかえたもので、境界線の内側は通常のドアミラーと同じですが、境界線の外側は通常のドアミラーよりも視界が広い範囲まで確保できるようになっています。

知識

■ 距離感覚について

境界線より外側に映るものは、内側に映るものに比べて、実際よりも遠くにあるように見えます。

リバース連動機能

後退時にドアミラーの角度を下向きにして、下方を容易に確認することができます。

知識

■ リバース連動機能の作動条件

- エンジン スイッチが “ON” のとき
- メインスイッチが R、または L
- シフトレバーが R の位置

■ 次のいずれかの操作でミラーはもとの位置に戻ります

- エンジン スイッチを “LOCK” または “ACC” にする
- メインスイッチを中立の位置にする
- シフトレバーを R 以外の位置にする

 警告

■ 走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走行しない

必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは

手を触れないでください。

手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるので触れないでください。

 注意

■ ミラーが凍結したときは

鏡面を擦らず、ミラーヒーターを使用するか、温水をかけて溶かしてください。

1-4. ドアガラス・メタルトップの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスの開閉ができます。



1 自動全開※ (強く押す)

2 開ける

3 閉める

4 自動全閉※ (強く引く)

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ロックスイッチ



1 スイッチを押して助手席のドアガラスを作動不可にする

お子様が誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

 知識

■ パワーウィンドウの作動条件

エンジン スイッチが“ON” のとき

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- キー操作でドアガラスを開閉することができます。(→ P. 19)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開くことができます。(→ P. 17)

■ キーオフ後作動機構

エンジン停止後、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機構

ドアガラスを開めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ バッテリーを再接続したときは

パワーウィンドウを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。
(各ドアガラスごとに、各席スイッチで行います。)

手順 1 半分までドアガラスを開ける

手順 2 スイッチを引き上げてドアガラスを全閉し、そのままスイッチを約 1 秒間保持する

初期設定が完了すると、スイッチ上のインジケーターが点滅から点灯に変わります。



警告

■ ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子様へは手などを出さないよう声かけをしてください。

- お子様には、ドアガラスの操作をさせないでください。

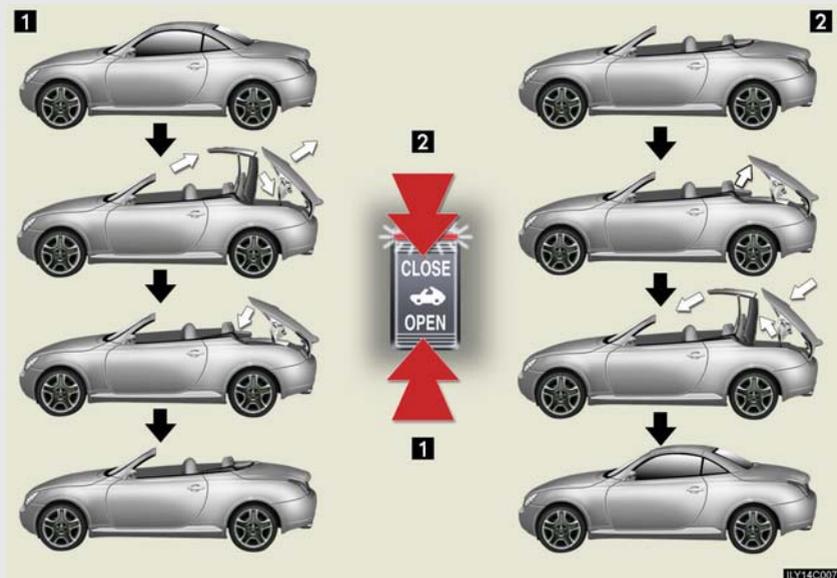
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機構

- 挟み込み防止機構を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機構は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機構は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-4. ドアガラス・メタルトップの開け方、閉め方 電動開閉式メタルトップ

エアコン操作部にあるスイッチでメタルトップを自動開閉できます。



1 開く

“OPEN”側を押し続けます。

2 閉まる

“CLOSE”側を押し続けます。

メタルトップ操作中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

全開・全閉されないまま走行すると、作動表示灯の点灯およびブザーが鳴ります。



知識

■メタルトップの作動条件

- 車が停車状態である
- エンジン スイッチが“ON” のとき
- トランクが閉まっている
- グローブボックス内のトランクオープナーメインスイッチを使用可能にする（押し込んだ状態）
- トランク内のラゲージカバーが正しくセットされている

坂道や段差のあるところでは、正しく作動しないことがあります。

■作動表示灯が点滅したり、メタルトップが動かないときは

上記の作動条件を確認してください。

すべての作動条件が成立したら、次の操作後もう一度開閉操作を行ってください。

- エンジンをかけていなければ、エンジンをかける
- シフトレバーを P にする

■作動表示灯が点灯または消灯したままメタルトップが動かないときは

レクサス販売店で点検を受けてください。

■開閉作動終了時にクォーターウィンドウが作動しないときは

いったんスイッチから指をはなし、再度スイッチの同じ側を押してください。

■開閉作動終了後にサイドウィンドウも閉めるには

そのままスイッチを押し続けてください。

■ブザーが鳴ったときは

安全な場所に停車して、メタルトップを全開または全閉してください。

■オーディオの音について

メタルトップの開閉に連動して、自動的に調節されます。

警告**■メタルトップを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 乗員の安全を確認してください。万一、体などが挟まれた場合は、ただちに操作を中止してください。



- メタルトップ開閉時は、トランク部が作動するため、周囲に人がいないことを確認してください。

- ヒンジやレール部などに手などを挟まないようにしてください。
- 操作の途中で止めないでください。
- 強風時は操作しないでください。

■走行中の警告

- メタルトップが半開状態のまま走行しないでください。
- シートに立ったり、パッケージトレイに座ったり、身を乗り出さないでください。

■お子様を乗せるときは

- キーをエンジン スイッチにつけたまま車を離れないでください。
お子様が誤って、メタルトップやウインドウを操作すると危険です。
- お子様にはメタルトップの操作をさせないでください。
メタルトップに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ **メタルトップ開閉時の注意**

- 操作するときは頭上周辺を確認してください。
- パッケージトレイの上にはどんなに小さな物でも置かないでください。
- メタルトップに座ったり、荷重をかけないでください。
- 気温が- 20℃以下のときや、サイドウィンドウやクォーターウィンドウが凍結しているときは開閉しないでください。暖房した車庫などで車を暖めてから行ってください。
- メタルトップが濡れているときは開閉しないでください。内装がいたんだり、汚れやしみの原因になります。
- 開閉するときは、リヤウィンドウデフォグを OFF にしてください。
- 開閉中にトランクを開けないでください。
- 短時間の間にくり返し開閉すると、モーターの保護回路が作動し、メタルトップの操作ができなくなることがあります。この場合は、いったんエンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”にし、しばらくしてから再度操作してください。
- ラゲージカバーの上に物を置かないでください。
- ラゲージカバーを確実に閉めてください。荷物がはみ出ししたりすると開閉の妨げとなります。

1-5. 給油のしかた 給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

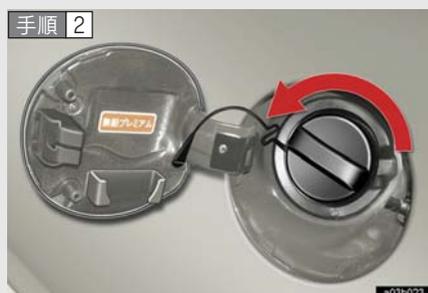
■ 給油する前に

エンジンを停止しドアと窓を開けてください。

■ 給油口の開け方



給油口オープナーを押して給油口を開ける



キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを開めるときは



キャップを“カチッ”と一度音がするまで閉める

手を離すと若干もどりますが異常ではありません。

知識

■ 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン

■ 燃料タンク容量

約 75 L

警告

■ 給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめるときに“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
ゆっくりと開けないと、気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近づけない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

 **警告****■ 給油について**

- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内に戻ったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■ キャップ交換時の警告

レクサス純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 給油するときは**

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。



キーをエンジン スイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

知識

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属性のものに接したり、おおわれているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムを無効にするなどの改造や取りはずしをしないでください。お守りいただかないとシステムが正常に作動しないおそれがあります。

1-6. 盗難防止システム オートアラーム

ワイヤレスリモコンで施錠すると、オートアラームが設定されます。
不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。



メタルトップが開いているときは閉じてください。
ドア・トランク・ボンネットを閉め、ワイヤレスリモコンで施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されると、セキュリティインジケータが点灯から点滅にかわります。

※G-Link をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書 / G-Link / G-Security」をご覧ください。

オートアラームを解除および警報作動を停止するには



以下のいずれかを行ってください。

- ワイヤレスリモコンで解錠する
- エンジンを始動する
(数秒後に解除・停止します。)

 知識

■ **ドアを施錠する前の確認**

オートアラームの思わぬ作動を防ぐため、施錠するときに車内に人がいないか、ドアガラスとメタルトップが閉じているか確認してください。

■ **オートアラームが作動するとき**

- オートアラーム設定状態で、ワイヤレスリモコンを使わずにドアまたはトランクが解錠されたり、開けられたとき
- オートアラーム設定状態で、ボンネットが開けられたとき
- バッテリーが再び接続されたとき

■ **バッテリーをはずすときは**

オートアラームを解除してください。解除していないとバッテリーを再接続したときに警報作動してしまいます。

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 27）
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるような位置にする（→ P. 27）
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 27）
- 4 SRSエアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 39）
- 5 ヘッドレストの中心が耳のいちばん上の辺りになるようにする（→ P. 31）
- 6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 33）

警告

■ 走行中は

- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■ シートを調整するときは

- 同乗者がシートに当たってけがをしないよう注意してください。
- シートの下や動いてる部分に手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは、乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

2 SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
(フロントシート乗員の胸などへの衝撃を緩和)

 知識**■ SRS エアバッグが展開すると**

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席の一部などだけでなく SRS エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、SRS エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。SRS エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

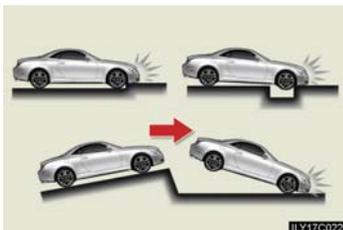
- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、作動する車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。
- 助手席に乗員がいないと、助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められていたりすると、乗員の有無にかかわらず、助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグが作動することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ）

- SRS サイドエアバッグは、側面から強い衝撃を受けた場合に作動します。
- 助手席に乗員がいないと、助手席の SRS サイドエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められていたりすると、乗員の有無にかかわらず、助手席の SRS サイドエアバッグが作動することがあります。

■ 衝突以外で作動するとき

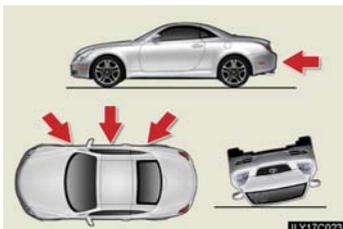
以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

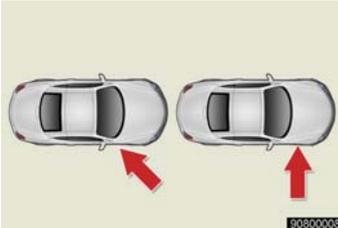
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

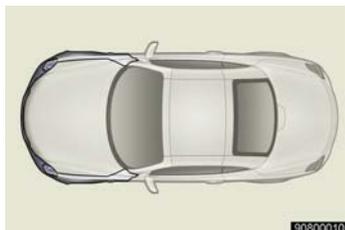


- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。
レクサス販売店に連絡する前にバッテリーのケーブルをはずさないでください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部（イラストの影で示した部分）を衝突したとき、あるいは破損、変形したとき



- SRS サイドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部（イラストの影で示した部分）を衝突したとき、あるいは破損、変形したとき



- ハンドルのパッド部分や助手席 SRS エアバッグのカバー部、インストルメントパネル下部（イラストの影で示した部分）が傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグのついているシート表面（イラストの影で示した部分）が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


警告
■ SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



- お子様を助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。



- ドアへ寄りかからない。

警告

■ SRS エアバッグについて

- お子様シートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子様が小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。



- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしないようにする。



- ダッシュボード、ステアリングパッド、インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。



- ドアなどには何も取り付けない。

警告

■ SRS エアバッグについて

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーがついている場合は取り除いてください。



- 助手席足元のネットポケット内に物を収納する場合は、物がネットの上部からはみ出さないようにしてください。SRS ニーエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに収納していた物が飛ばされて危険です。

- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだ後で、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。



警告

■ 改造・修理・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、以下の改造・修理・廃棄をしないでください。
SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の不適切な修理、改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)、除雪装置、ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- C D プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子様をのせるときは、チャイルドシートをお使いください。ここでは、弊社純正チャイルドシートを幼児用※として助手席に取り付ける方法を説明します。

必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書を併せてお読みください。

また、弊社純正以外のチャイルドシートを取り付けるときは、その商品に付属の取扱説明書に従ってください。

※幼児用の目安は、体重 9 kg ~ 18 kg 未満、参考年齢 9ヶ月頃 ~ 4 歳頃、参考身長 70 cm ~ 100 cm 以下です。



知識

■チャイルドシートの固定について

この車両には、チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーは装備されていません。

シートベルトで固定するタイプのチャイルドシートをご使用ください。

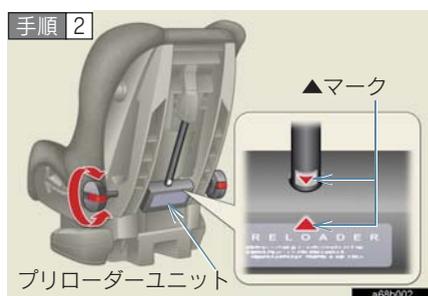
チャイルドシートを取り付ける前に

チャイルドシートを取り付ける前の準備を行います。



リクライニングレバーを引きながら、リクライニング位置を前向き用（1 段階）にセットする

リクライニングレバーが戻らない場合は、正しくセットされていません。チャイルドシートを軽く前後に動かし、ロックされたことを確認してください。



プリローダーユニットのカバーとシャフトにある▲マークを、ハンドルをまわして合わせる

チャイルドシートの取り付け

手順 1 助手席の前後位置調整をいちばんうしろの位置にする (→ P. 27)

手順 2



助手席にチャイルドシートを置く

このとき、チャイルドシートのシートフレームが助手席の背もたれにぴったりと沿わないときは、助手席の前後位置調整・リクライニング調整 (→ P. 27)、ヘッドレスト (→ P. 31) などを調整します。

手順 3

前向き用
ベルト通し口



シートベルトを前向き用ベルト通し口に通す

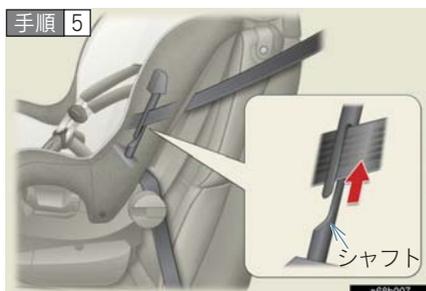
手順 4



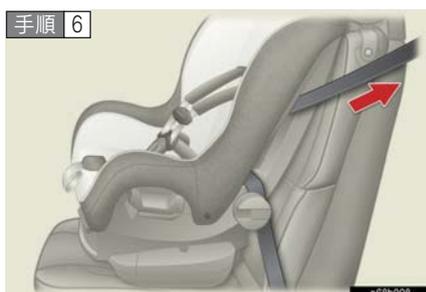
手順 3の反対側の前向き用ベルト通し口からシートベルトを引き出し、プレートをバックルに差し込む

1

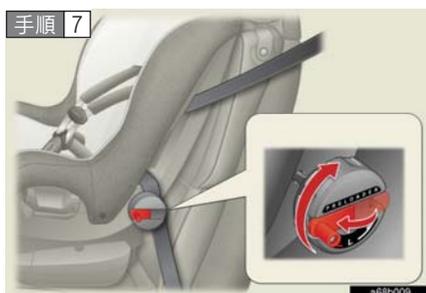
運転する前に



シャフトの切れ込みに肩側シートベルトを通す



肩側シートベルトをシャフトから外れないように強く引く



ハンドルのレバーを起こし、“しまる”方向にまわす

空まわりしながら「カチカチカチカチ」と4回以上音がするまでまわします。

傾きが発生した場合は、傾きを修正してチャイルドシートがまっすぐになるように取り付けてください。

手順 8] ハンドルレバーを元に戻す

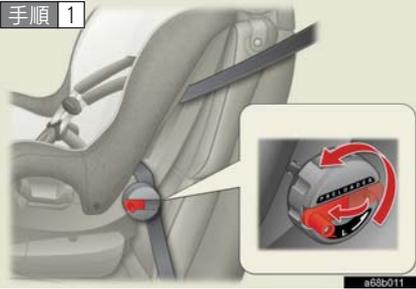


チャイルドシートを前後左右にゆすり、3cm以内の動きであることを確認する

3 cm 以上動く場合は、「チャイルドシートの取り付け」(→ P. 69) からやり直してください。

チャイルドシートの取りはずし

手順 1



ハンドルのレバーを起こし、“ゆるむ”方向にまわし、シャフトからシートベルトをはずす

手順 2



シートベルトのプレートをバックルからはずす

手順 3 ベルト通し口からシートベルトを引き出す

1

運転する前に



警告

■チャイルドシートについて

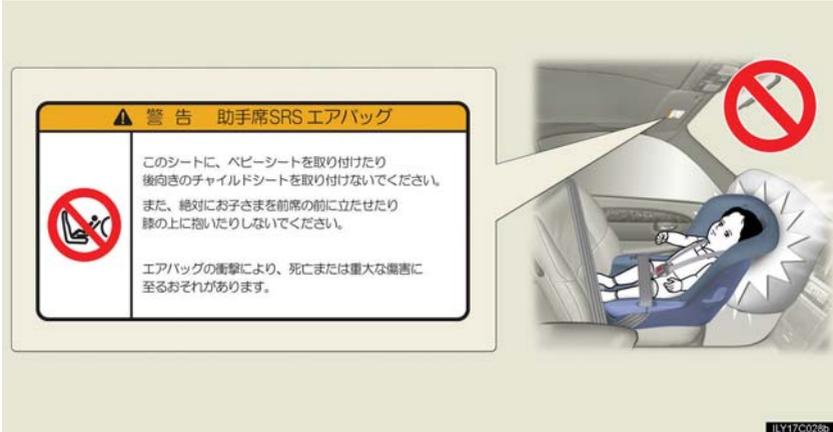
- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子様の年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子様を腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子様がフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子様の年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してください。
- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアや車両のシート付近にお子様の頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

- シートベルトとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右に動かして、きちんと固定されているか確認してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは



- 助手席にはチャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。後ろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。



- 助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げ取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ 弊社純正チャイルドシートを取り付けるときは

以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートと助手席シートにすき間ができないよう取り付ける
- チャイルドシートのリクライニング位置が確実にロックされていることを確認する
- 助手席に前向きに取り付ける場合は、チャイルドシートのリクライニング位置を、前向き用位置（1 段目）で使用する
- ベルト通し口以外にシートベルトを通さない



- シートベルトはハンドルの後ろ側を通す

■ チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。（→ P. 67）チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかりと固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管してください。

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	76
エンジン（イグニッション） スイッチ	83
オートマチックトランス ミッション	85
方向指示レバー	90
パーキングブレーキ	91
ホーン（警音器）.....	92

2-2. メーターの見方

計器類.....	93
表示灯／警告灯	95
トリップインフォメーション 表示.....	97

**2-3. ライトのつけ方・ワイパーの
使い方**

ライトスイッチ	98
フォグライトスイッチ	101
ワイパー&ウォッシャー	102

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール.....	105
運転を補助する装置.....	109

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意.....	114
寒冷時の運転	115

2-1. 運転のしかた 運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行してください。

■ エンジンをかける (→ P. 83)

■ 発進する

手順 1



ブレーキペダルを踏んだまま、オートマチックトランスミッションのシフトレバーを D にする (→ P. 85)

手順 2



パーキングブレーキを解除する (→ P. 91)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にしてください。

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

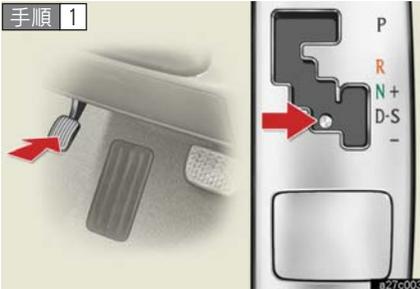
手順 2 パーキングブレーキをかける

手順 3 シフトレバーを P にする

手順 4 エンジンを停止する

手順 5 キーを抜き、車外に出て施錠する

上り坂の発進のしかた



パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢運転者標識などをアルミ部分に取り付けることはできません。

**警告****■ 発進するときは**

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するときは

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま、惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 走行中は決してシフトレバーを、P、Rの位置に動かさないでください。機械に重大なダメージを与えるとともに、車がコントロールを失う結果をまねくことがあります。
- 走行中はエンジンを停止しないでください。パワーステアリングおよびブレーキ倍力装置は、エンジン回転中でないと作動しません。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして、正常に機能しなくなります。(→ P. 87)

 **警告****■ 運転するときは**

- 走行中はシフトレバーを N にしないでください。
N にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 冠水した道路は走行しないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に停車し、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルに足を置いてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。



警告

■ 駐車するときは

- 炎天下では、メガネ、ライター、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落とされたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ドアガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっている間は車から離れないでください。
- エンジン回転中または、停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ 排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部分の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

 警告

■ 仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ ブレーキをかけるときは

- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また、制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまう。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 注意

■ 運転中は

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。

P にしておかないと車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

 注意

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリング装置の損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けしないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドインジケーター）

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときは、タイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 195, 203 をご覧ください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

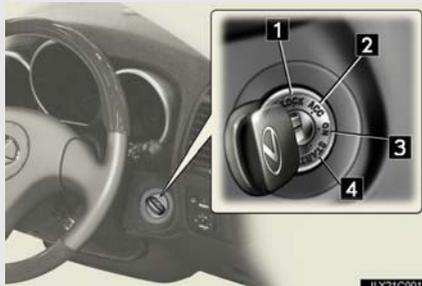
- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

■ エンジン スイッチの位置



1 “LOCK”

- ・ ステアリングロックがかかります。
- ・ シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 “ACC”

エンジン停止時、オーディオなどが使用できる位置

3 “ON”

運転するときの位置

4 “START”

エンジンを始動する位置

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

走行中にエンジンを再始動する必要がある場合は、シフトレバーを N にしてください。

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

手順 4 エンジン スイッチを “START” の位置にまわす*

※ キーがまわりにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながら、キーをまわします。

□ 知識

■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。

キーがエンジン スイッチに正しく差されているかご確認ください。(→ P. 54)



警告

■ **エンジンを始動するときは**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、キーを“ON”または“ACC”の位置で、長時間放置しないでください。

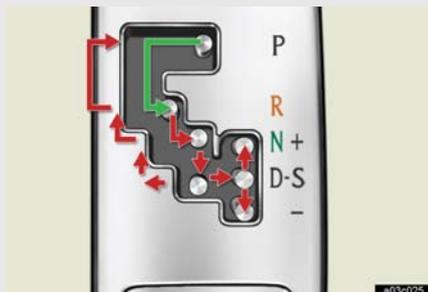
■ **エンジンを始動するときは**

- 一度に 30 秒以上スターターを回さないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

シフトレバーの操作は、ゆっくりと確実にこなってください。



➡シフトレバーを P からシフトするときは、エンジン スイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフト ポジション	目 的
P	駐車またはエンジン始動・停止（キー抜き取り位置）
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ ¹
S	Sモード走行※ ² （→P. 87）

※¹ 燃費向上や騒音低減のために、通常はDポジションを使用してください。

※² Sモードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、エンジンブレーキ力を切り替えたり、高速ギヤ段への不要なアップシフトを抑えた走行ができます。

■ 走行モードの選択

走行・使用条件にあわせて、以下のモードを選択できます。



- 1** パワーモード
(パワフルな運転や山間地などの走行)
 - 2** 通常走行モード
 - 3** スノーモード
(雪道など滑りやすい路面での発進、走行)
- 通常走行モードに戻すときは、SNOWを押します。

Sモードでのシフトレンジ切り替え

シフトレバーを S の位置にして、以下のように操作します。



1 シフトレンジアップ

2 シフトレンジダウン

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは4レンジに設定されます。

ただし、DポジションにてAI-SHIFT制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが3レンジまたは2レンジになる場合があります。(→P. 89)

■ シフトレンジ機能

シフトレンジ	機 能
6	スピードや走行条件に応じて、1速から6速のギヤが自動的に変わります。
5	スピードや走行条件に応じて、1速から5速のギヤが自動的に変わります。
4	スピードや走行条件に応じて、1速から4速のギヤが自動的に変わります。
3	スピードや走行条件に応じて、1速から3速のギヤが自動的に変わります。
2	スピードや走行条件に応じて、1速から2速のギヤが自動的に変わります。
1	ギヤが1速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンプレーキ力は大きくなります。

知識

■ シフトレンジダウン制限警告ブザー（Sモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、希望するシフトレンジにシフトされない場合があります。シフト操作によるシフトレンジダウンが行われな
い場合は警告ブザーが鳴ります。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ クルーズコントロールを使って走行しているときは

次のとき、エンジンプレーキは効きません。

- シフトレバーを D から S にしたとき
- Sモード走行時、6→5、5→4速にしたとき

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択後、エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にすると、自動的に通常走行モードに切り替わります。

■シフトレバーを P から操作できないときは

→ P. 205

■Sモードにしてもシフトポジション表示灯のSが点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行条件により自動的に最適なシフトレンジに切り替えます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。

(シフトレバーを S にすると、機能が解除されます。)

NAVI・AI-SHIFT：

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。

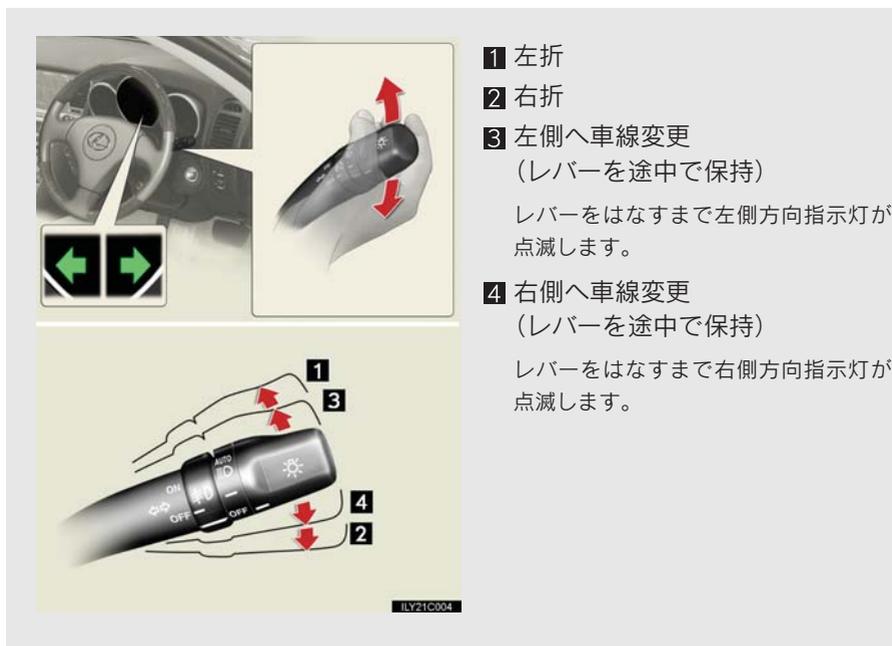
使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

警告

■滑りやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー



知識

■ 方向指示レバーの作動条件

エンジン スイッチが“ON” のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ



1 パーキングブレーキが解除される

解除レバーを手前に引きます。

2 パーキングブレーキがかかる

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

警告

■ 走行前の警告

パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗し事故につながるおそれがあります。

2-1. 運転のしかた ホーン（警音器）



ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります。

2-2. メーターの見方 計器類



エンジンスイッチを“ON”にするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

4 燃料計

燃料残量を示します。

5 オドメーター

走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター A・トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。

6 オドメーター／トリップメーター切り替えボタン

ボタンを押すごとに次のように表示が切り替わります。

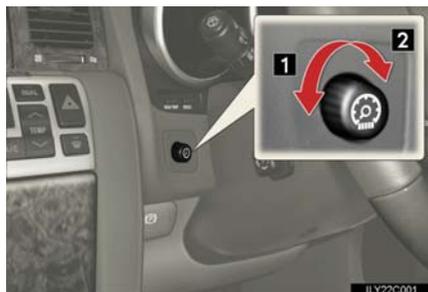
→トリップメーター A →トリップメーター B →オドメーター→

7 トリップメーターリセットボタン

ボタンを約 1 秒間押し続けると、表示中のトリップメーターが 0 にもどります。

メーター照度調整スイッチ

メーター照明の明るさを調整することができます。



- 1 暗くなる : スイッチを左にまわす
- 2 明るくなる : スイッチを右にまわす

周囲が明るいときは、明るさの調整はできません。

右いっぱいまわすと、ランプスイッチを ON にしたとき減光されません

注意

■ エンジンや構成部品の損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 210）

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

表示灯・警告灯で車の状況をお知らせします。

▶ メーター内



▶ インストルメントパネル助手席側



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→ P. 90)



スリップ表示灯
(→ P. 109, 110)



ヘッドライト上向き表示灯
(→ P. 98)



V S C O F F 表示灯
(→ P. 110)



シフトポジション表示灯
(→ P. 85)



クルーズコントロール表示灯
(→ P. 105)



シフトレンジ表示灯
(→ P. 87)



E C T P W R 表示灯
(→ P. 86)



車幅灯表示灯 (→ P. 98)



E C T S N O W 表示灯
(→ P. 86)



A F S O F F 表示灯
(→ P. 99)



フォグライト表示灯
(→ P. 101)

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 188)



※印の警告灯は、作動確認のため、エンジン スイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを“ON”にしても点灯しない場合や点灯したままのときは、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

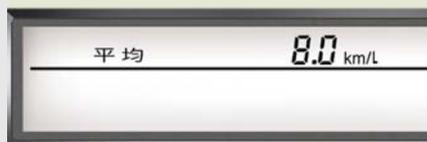
トリップインフォメーション表示

以下の情報がエアコン表示部に表示されます。

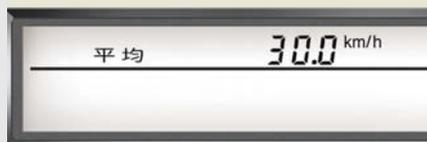
■ 表示情報



走行可能距離 (km)



平均燃費 (km/L)



平均車速 (km/h)

表示なし

■ 表示の切り替え



スイッチを押すごとに表示が切り替わります。

使用状況などにより、実際の数値と異なる場合があります。

□ 知識

■ 平均燃費および平均車速をリセットしたいときは

トリップインフォメーションスイッチを約 1 秒以上押し続けてください。

アダプティブフロントライティングシステム（AFS）

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。



1 AFS 停止

2 AFS 作動

停止中はメーター内の AFS OFF 表示灯が点灯します。

知識

■ AFS の作動条件

車速が約 10km/h 以上で作動開始となり、車速が約 10km/h 未満になると作動は停止します。

■ AFS OFF 表示灯が点滅したときは

システムの異常が考えられますので、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ライトセンサー



センサーの上に物を置いたり、センサーを塞ぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に動かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能

ライトを点灯したままエンジンを停止し、運転席ドアを開けるとライトが消灯します。

再びライトを点灯したい場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、一度ライトスイッチをOFFに戻し、再度 **⏻** または **⏻** の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ 販売店で設定可能な機能

ライトが自動点灯・消灯するまでの時間などを変更できます。
(カスタマイズ一覧→P. 232)



■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライト類を長時間点灯しないでください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で、視界を確保します。



1 点灯

2 消灯

車幅灯またはヘッドライトが点灯しているとき使用できます。

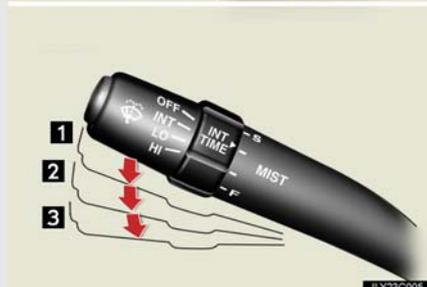


2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー&ウォッシャー

ワイパーを作動させると、ミラーヒーターも同時に作動します。



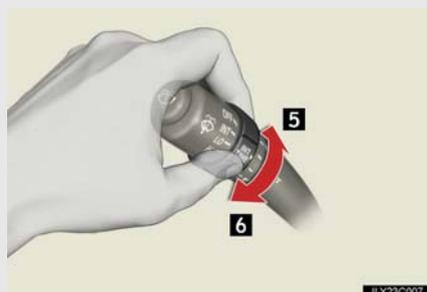
- 1 間欠作動 (INT)
- 2 低速作動 (LO)
- 3 高速作動 (HI)



- 4 レバーを手前に引いている間
低速作動 (MIST)



- 5 間欠ワイパーの作動頻度 (減)
- 6 間欠ワイパーの作動頻度 (増)





7 ウォッシャー液を出す (ワイパーが数回作動します)

数秒後(車速に応じて可変)、液だれ防止のためワイパーが作動します。

知識

■ワイパー＆ウォッシャーの作動条件

エンジン スイッチが“ON” のとき

■車速感応間欠時間制御

レバーが**1**の位置のとき、車速に応じて間欠時間が変化します。

- 車速が速くなると間欠時間が短くなります。

■停車時作動切り替え

レバーが**2**の位置のとき作動します。

- 走行中は低速作動を行い、停車すると間欠作動に切り替わります。
- ツマミを下側にいっぱい(Fの位置)にまわしたときは、停車しても間欠作動になりません。

■ミラーヒーター連動機能について

- ワイパーの作動に連動してミラーヒーターも作動します。
- ワイパーを停止すると約15分後にミラーヒーターが停止します。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。

■販売店で設定可能な機能

液だれ防止、停車時作動切り替え機能は解除することができます。
(カスタマイズ一覧→P. 232)



■ **ワイパー作動中の警告**

ミラーヒーターが連動作動するため、ドアミラーの表面に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。



■ **窓ガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

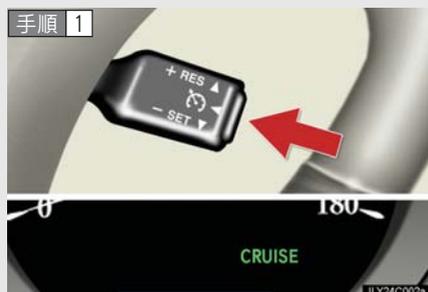
2-4. その他の走行装置の使い方 クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走ることができます。



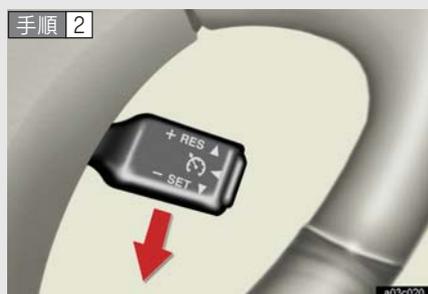
- 1 作動表示灯
- 2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定し、定速走行する



メインスイッチを ON にする

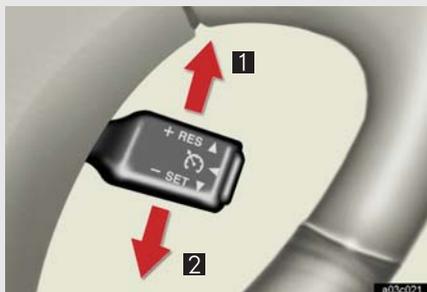
OFF には再びスイッチを押します。



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

約 40km/h 以上のとき設定できます。

■ 設定速度をかえる

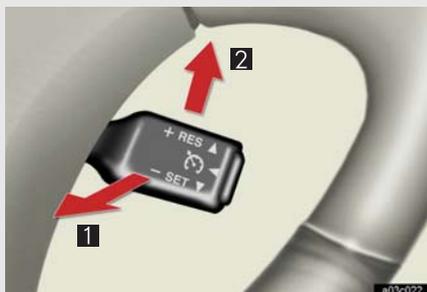


1 増速

2 減速

希望の速度になるまでレバーを保持します。
{レバーを軽く操作して手を離せば、設定速度の微調整（約 1.5km/h）ができます。}

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除

解除するには、レバーを手前に引くか、ブレーキを踏みます。

2 復帰

レバーを上げると定速走行に戻ります。
ただし、速度が約 40km/h 以下になると復帰しません。

 知識**■ 設定条件について**

- シフトレバーが D または S の 4・5・6 レンジのとき設定できます。
- 車速は約 40 ~ 100km/h の範囲で設定できます。

■ アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速に戻ります。

■ クルーズコントロールを使って走行しているときは

次のとき、エンジンブレーキは効きません。

- シフトレバーを D から S にしたとき
- S モード走行時、6→5、5→4にしたとき

■ 定速走行の自動解除

走行条件によって、以下のようなときは自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 40km/h 以下になったとき
- VSC が作動したとき

■ 定速走行の復帰について

次の方法で定速走行状態が解除された場合は、レバーを上げ、手を離すともとの定速走行状態にもどります。

- レバーを手前に引いての解除
- ブレーキペダルを踏んでの解除
- VSC の作動による解除

■ 定速走行中に表示灯が点滅したときは

メインスイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。



■ 誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 雨天時や凍結路・積雪路などの滑りやすい路面
- 急な下り坂
- 曲がりくねった道

2-4. その他の走行装置の使い方 運転を補助する装置

走行の安全性を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時や坂道を下るときに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や滑りやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

滑りやすい路面での発進時や加速時に後輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

VSC または TRC が作動しているとき



車両が横滑りしそうになったとき、または後輪が空転したときは、VSC、TRCの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

VSC が作動するときは、ブザー（断続音）が鳴ります。

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには



- 1 TRC を停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態に戻ります。

■ TRC と VSC を停止するには



- 1 TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し、3 秒以上保持します。

スリップ表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態に戻ります。

 知識**■ TRC や VSC の自動復帰について**

TRC や VSC を作動停止にしたあと、エンジン スイッチを “LOCK” にすると自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■ TRC と VSC OFF の作動制限

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ ABS ・ VSC ・ TRC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだ時などに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- ABS ・ VSC ・ TRC が作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やステアリングに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS 作動時にブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS 作動終了後、ブレーキペダルが少し奥にはいる



警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨で濡れた路面や、滑りやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。

以下の状況では、常に速度を控えめにし、前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。

無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅しブザーが鳴ったら、特に慎重に運転してください。

 **警告****■ TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外はTRC機能、VSC機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤを交換するときは

4輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・銘柄・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（タイヤについて→ P. 229）異なったタイヤを装着すると、ABS や VSC が正常に作動しません。

タイヤまたはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするため、不要な荷物は積まないようにする

警告

■ 積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。

お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかつたり、荷物が視界をさえぎつたり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ バックシートトレイ
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

以下のことをお守りください。お守りいただかないと、タイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下を引き起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 荷重を不均等につけないようにしてください。
- 荷物を積みすぎないようにしてください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで、適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル (→ P. 226)
 - ・ 冷却水 (→ P. 228)
 - ・ ウォッシュャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ (4輪) やタイヤチェーン (後部タイヤ用) を用意してください。

タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、チェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。(→ P. 229)
(タイヤについての詳しい説明は P. 151 をご覧ください。)

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウィンドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、輪止めをしてください。

 知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおっております。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については、以下の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがう

 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合、死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
 - 空気圧を推奨値に調整する
 - お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない
- タイヤについての詳しい説明は P. 151 をご覧ください。

■ タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合、死亡事故につながるおそれがあります。

- 50km/h（一般路）または 30km/h（氷雪路）を超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前では、十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

 **警告****■ 駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

必ずレクサス純正タイヤチェーンを使用してください。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体に当たり、走行の妨げとなるおそれがあります。
詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

■ タイヤを修理・交換するときは

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
タイヤについての詳しい説明は P. 151 をご覧ください。

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しない場合があります。

■ フロントウィンドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. エアコン・デフォッガーの 使い方

オートエアコン	120
リヤウインドウデフォッガー (曇り取り)	126

3-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	127
・ インテリアライト	128
・ パーソナルライト	128

3-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	129
・ グローブボックス	130
・ センターコンソール ボックス	131
・ コインボックス	133
・ カップホルダー	134
・ 小物入れ	135

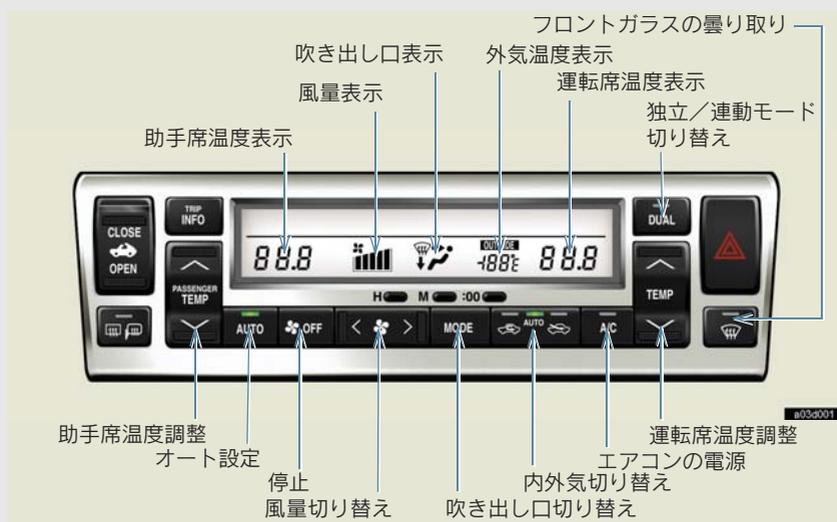
3-4. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	136
時計	137
灰皿	138
シガレットライター	139
アクセサリソケット	140
シートヒーター	141
フロアマット	142
トランク内装備	143

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

オートエアコン

設定温度にあわせて風量と吹き出し口を自動で調整します。



オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。

手順 1 **AUTO** を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量が自動的に調整されます。

手順 2 **TEMP** を押し、温度を調整する

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

手順 1 **AUTO** を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量が自動的に調整されます。

手順 2 **DUAL** を押す

手順 3 運転席側は **TEMP**、助手席側は **TEMP** を押し、温度を調整する。

再び **DUAL** を押すと、連動モードになります。

知識

■ オート設定の作動について

設定温度や状況にあわせて風量などが調整されるため、以下のような場合があります。

- 最大冷房時に内気循環に切り替わる
- 作動直後、しばらくの間ファンが停止する

お好みの設定で使うとき

■ 設定温度を変えるには

運転席側は 、助手席側は  を押す

連動モード使用時、 を押すと独立モードに切り替わります。

■ 風量を変えるには

 の<側（減）か>側（増）を押す

風量は5段階で切り替わります。送風を止めるには、 を押します。

■ フロントガラスの曇りを取るには

手順 1  を押す

ファンとエアコンが作動します。

手順 2  で （外気導入側）に設定する

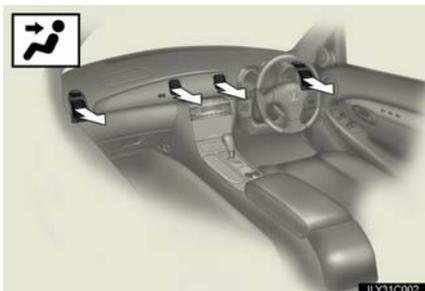
外気温が低いときは、自動的に  に切り替わります。

■ 吹き出し口を切り替えるには

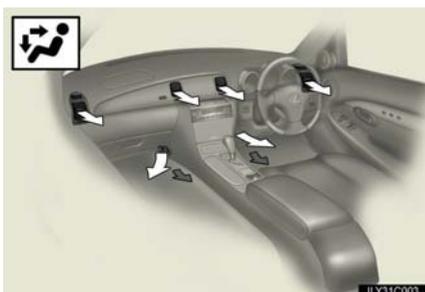


MODE を押す

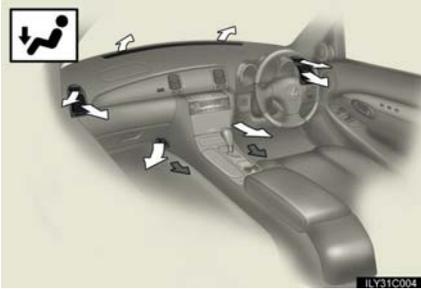
押すごとに以下のように吹き出し口が替わります。



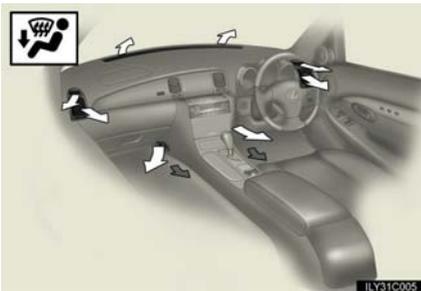
上半身に送風



上半身と足元に送風



足元に送風



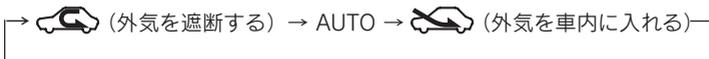
足元に送風・ガラスの曇りを取る

➡の吹き出し口は、メタルトップが全開のとき送風されます。

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

 を押す

押すごとに、以下のように切り替わります。



風向きの調整・吹き出し口の開閉



- 1 上下・左右に風向きを変える
- 2 ダイヤルを左にまわすと吹き出し口が閉じ、右にまわすと開く

 知識

■ 内気循環に設定するとき

長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

■ 外気温度が0℃近くまで下がったとき

 を押してもエアコンは作動しません。

■ 中央足元吹き出し口について

メタルトップが全開のときのみ送風されます。

■  の表示灯が点滅した場合

 を押して、作動をいったん停止し、もう一度スイッチを押してください。

点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。エアコンの作動を停止し、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 外気温度表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約20km/h以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- 外気温度が非常に高い、もしくは低い場合

 **警告**
■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。

 **注意**
■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

3-1. エアコン・デフォグラーの使い方

リヤウインドウデフォグラー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るにお使いください。



1 オン/オフ

スイッチを押すとリヤウインドウデフォグラーが作動します。もう一度スイッチを押すと停止します。また、約15分で自動的に停止します。

知識

■ ガラス曇り防止機能

エアコンシステムの状態を感知して、自動的にエアコンが外気導入に切り替わる場合があります。

■ ミラーヒーターについて

リヤウインドウデフォグラースイッチを押すと、ミラーヒーターも同時に作動します。

警告

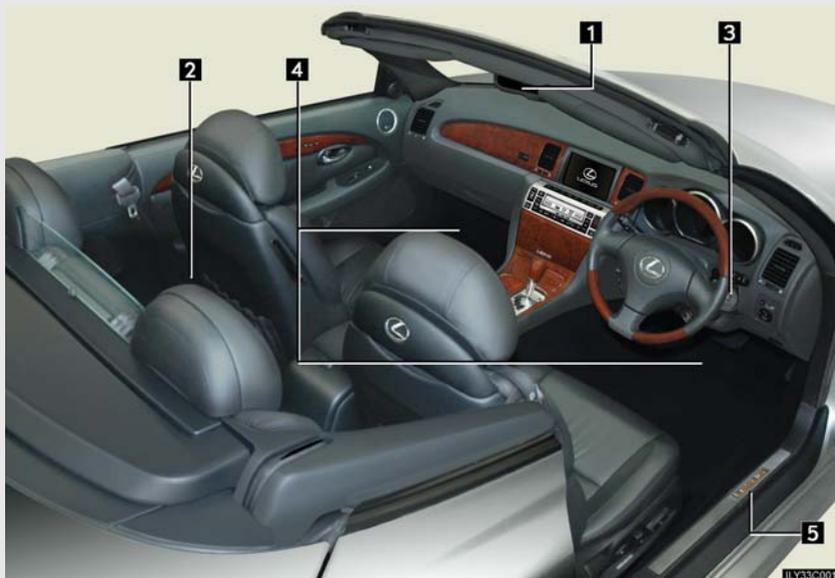
■ デフォグラー作動中の警告

ドアミラーは表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください。

3-2. 室内灯のつけ方 室内灯一覧

イルミネテッドエントリーシステム：

ドアの施錠・解錠や開閉により、各部の照明が自動的に点灯、消灯します。



- 1 インテリアライト、パーソナルライト (→ P. 128)
- 2 ドアカーテシライト
- 3 エンジンキー照明
- 4 前席足元照明
- 5 スカッフプレートライト

知識

■ 販売店で設定可能な機能

イルミネテッドエントリーシステムの作動を変更することができます。
(カスタマイズ一覧→ P. 232)

インテリアライト



- 1 消灯
- 2 ドアを開けると点灯
すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。

パーソナルライト

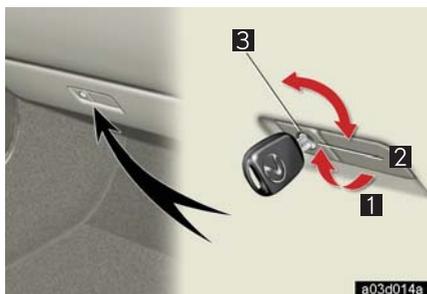


- 1 点灯／消灯

収納装備一覧



- 1 グローブボックス (→ P. 130)
- 2 センターコンソールボックス (→ P. 131)
- 3 コインボックス (→ P. 133)
- 4 カップホルダー (→ P. 134)
- 5 小物入れ (→ P. 135)

グローブボックス

- 1 開ける（レバーを引く）
- 2 マスターキーで施錠
- 3 マスターキーで解錠

 知識**■ グローブボックスライト**

車幅灯が点灯しているときは、グローブボックスを開けるとライトが点灯します。

■ トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→ P. 24）

 **警告****■ 走行中の警告**

グローブボックスを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

センターコンソールボックス

センターコンソールボックス

▶ 上段ボックス



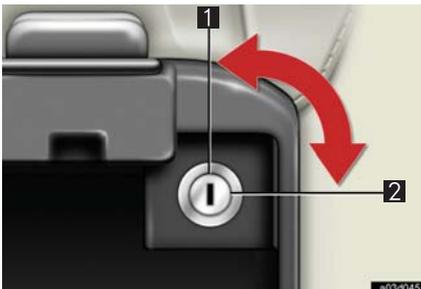
- 1 ボタンを押してロック解除
- 2 アームレストを持ち上げて開く

▶ 下段ボックス



- 1 下側のレバーを引いて
- 2 持ち上げる

■ 下段ボックスの施錠・解錠



- 1 マスターキーで解錠
- 2 マスターキーで施錠

**■ 非常用トランク解錠ワイヤー**

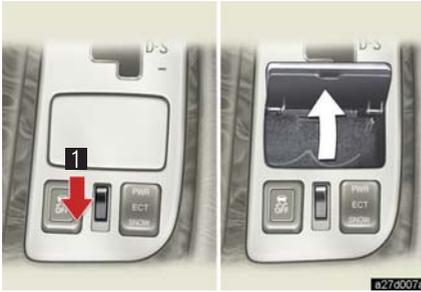
下段ボックス内にあります。(→ P. 213)

**■ 走行中の警告**

センターコンソールボックスを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コインボックス

コインボックス



1 引くと開く

警告

■ 走行中の警告

コインボックスを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

■ 開け方



- 1 カップホルダーのフタの左側を
押して開ける

■ 閉め方



- 1 ホルダー内部をロックするまで
内側に押す
2 カップホルダーのフタを閉める

⚠ 警告

■ 収納してはいけない物

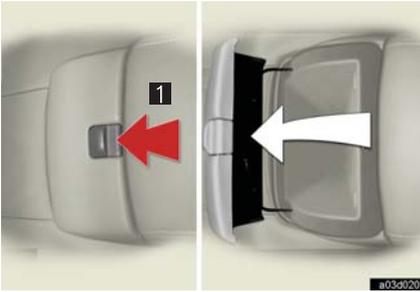
カップホルダーには、カップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故の際に落ちてけがをされるおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体が当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れ

小物入れ



1 押すと開く

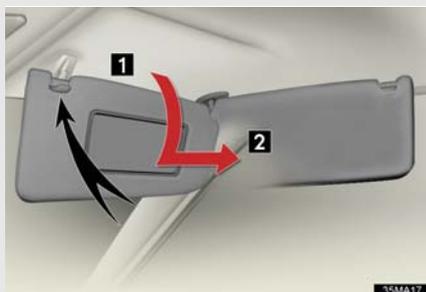
警告

■ 走行中の警告

小物入れのフタを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

3-4. その他の室内装備の使い方

サンバイザー



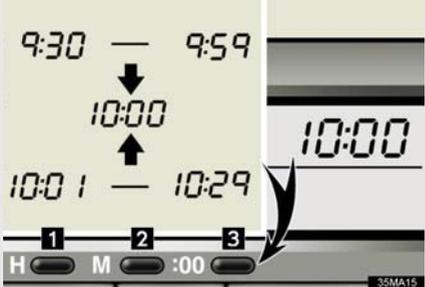
- 1 下ろす
- 2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー&ライト



- 1 開ける
フタを開けるとライトが点灯します。

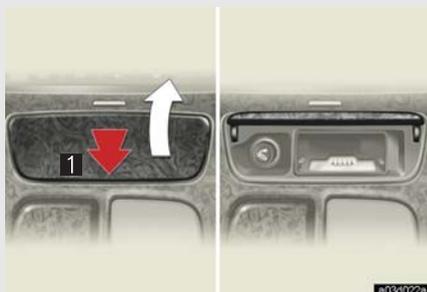
時計



1 H ボタン : “時” を調整する
2 M ボタン : “分” を調整する
3 :00 ボタン : “分” を 00 にする※

※ (例)
1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00

灰皿



1 灰皿のフタの下部を押して開ける

取りはずすときは、本体左右を持って引き上げてください。

警告

■ 使用後について

フタを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたフタに体が当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

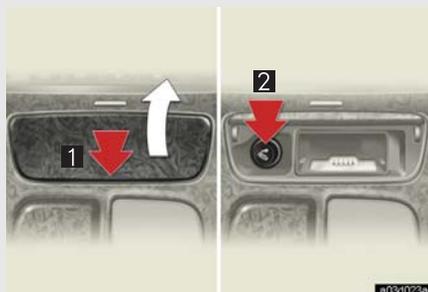
■ 出火を防ぐために

● マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。

● 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

3-4. その他の室内装備の使い方

シガレットライター



- 1 フタの下部を押して開ける
- 2 シガレットライターを押し込む
もとの位置に戻ったら使用できます。

知識

■シガレットライターの使用条件

エンジン スイッチが“ACC” または“ON” のとき

警告

■やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- 備え付けのシガレットライター以外のものを差し込まないでください。
ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

■使用後について

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体が当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

3-4. その他の室内装備の使い方

アクセサリースOCKET

12V 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。



知識

■ アクセサリースOCKETの使用条件

エンジン スイッチが“ACC” または“ON” のとき

注意

■ ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

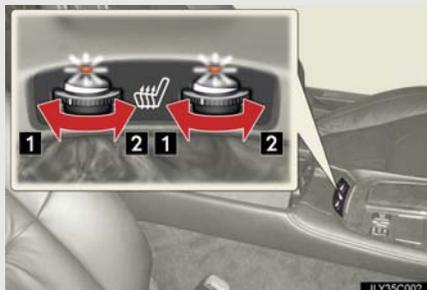
12V 10A を超えないようにしてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

3-4. その他の室内装備の使い方

シートヒーター



1 強（運転席側にまわす）

2 弱（助手席側にまわす）

助手席側にいっぱいまでまわすとオフになります。

作動中はインジケーターが点灯します。

知識

■シートヒーターの作動条件

エンジン スイッチが“ON” のとき

警告

■やけどについて

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方は特にご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子様、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布、クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

注意

■シートヒーターの故障を防ぐために

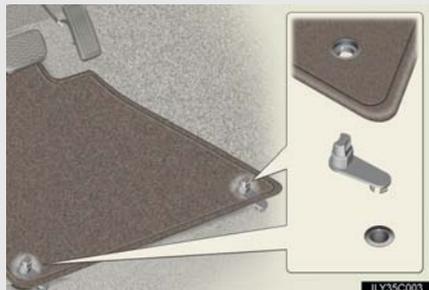
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときはスイッチをオフにしてください。

フロアマット

車に合ったものを、フロアカーペットの上にとしっかりと固定してお使いください。



カーペットには、フロアマットの固定クリップ取り付け用の穴があります。

警告

■フロアマットを敷くときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがすべったり、運転中にペダルの操作をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- フロアマットを裏返して使用しない
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない

3-4. その他の室内装備の使い方

トランク内装備

■ 荷物固定用フック



フックを使って荷物を固定することができます。

■ 三角表示板収納スペース



三角表示板を収納することができるスペースです。

(大きさ、形によっては収納できないことがあります。)

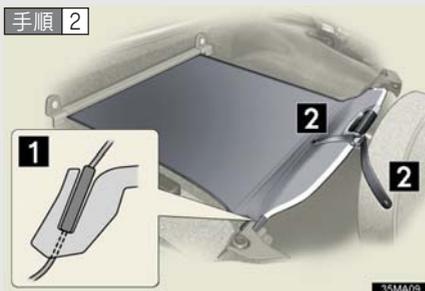
■ ラゲージカバー

手順 1



1 引く

手順 2



1 ラゲージカバーの左右のフックを固定

2 ストラップをラゲージカバーまたはタイヤカバーにマグネットで固定

知識

■ メタルトップの開閉について

ラゲージカバーを閉めておかないと、メタルトップの開閉はできません。(→ P. 48)

警告

■ 荷物固定用フックを使用しないときは

もとの位置に戻してください。
思わぬ事故につながるおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	146
内装の手入れ	148
タイヤについて.....	151

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	159
ガレージジャッキ.....	161
電球（バルブ）の交換.....	163
ヒューズの点検、交換.....	167
ワイヤレスリモコンの 電池交換	176
ウォッシュ液の補給.....	178
エアコンフィルターの 交換	179

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へよごれを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- よごれがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う
ポデー表面のよごれを落としても水が球状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける
- ポデーコート、ホイールコート、ガラスコート等のレクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。



知識

■ 自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ドアミラー・アンテナを格納してください。また、給油口がしっかりと閉まっていることを確認してください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- リヤスポイラー装着車は、洗車機によっては洗車できない場合や破損するおそれがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラス・ドアのすき間・ルーフの合わせ目・給油口には近づけすぎないでください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ 塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しくよごれたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

■アルミホイールの清掃は

中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。
傷つきやすいので研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは使用しないでください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤で擦らないようにしてください。

■サイドウィンドウの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、以下のことに注意してください。
 - ・ サイドウィンドウ表面の泥などのよごれを落とす
 - ・ よごれは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の損傷を避けるために

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は使用しないでください。

■ライトの清掃

注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

内装の手入れ

お手入れは以下の要領で実施してください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、よごれをふき取る
ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いた柔らかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分

- 掃除機をかけて、大まかなよごれを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてからよごれを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る



■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗淨

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。

洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗りこんでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを点検してください。



警告

■ 車両への水の浸入

- 床・トランク内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグ構成部品や電気配線をぬらさないでください。
電氣的不具合により、SRS エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、以下の溶剤は使用しないでください。

- シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤
- シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

■ 革の傷みを避けるため

革の部分の損傷、消耗を避けるために、以下のことをお守りください。

- 表面についたほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさない、特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると、革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

4-1. お手入れのしかた

タイヤについて

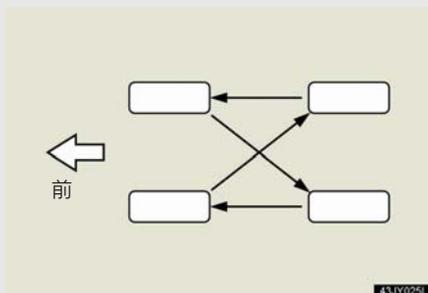
タイヤの点検は、法律で義務づけられています。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし、寿命を延ばすために、タイヤローテーション
(タイヤ位置交換) を 10,000km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた



図のようにタイヤを交換します。

■ タイヤ空気圧警報システム

タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムがついています。

ホイールからタイヤを脱着する際はまずバルブ／送信機を外してください。その際は、バルブ／送信機が損傷しないように注意が必要です。



■ ランフラットタイヤについて

→ P. 203

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付け替えたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。バルブ／送信機を装着するには3つの方法があります。

- 元のホイールからバルブ／送信機を外し、新しいホイールに付け替える
- ホイールはバルブ／送信機がついたままの元のものを使い、タイヤだけを交換する
- ホイールとバルブ／送信機ともに新しいものに変える

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、レクサス販売店へ依頼ください。(→ P. 154)

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

走行速度、重量変化等でタイヤ空気圧を変更した場合は初期化してください。

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

手順 1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

手順 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する (→ P. 155)

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態でおこなってください。

手順 3 エンジンを始動する



タイヤ空気圧を設定する

タイヤ空気圧警告灯が3回点滅するまでスイッチを押したままにします。

設定が完了するまでには、数分かかります。エンジンをかけたまま 2 ～ 3 分待機し、その後エンジンを停止 (エンジンスイッチを "LOCK") してください。

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードの登録・選択

■ ID コードの登録

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが付いています。ID コードは車 1 台につき 2 セット分のタイヤを登録できます。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておく便利です。

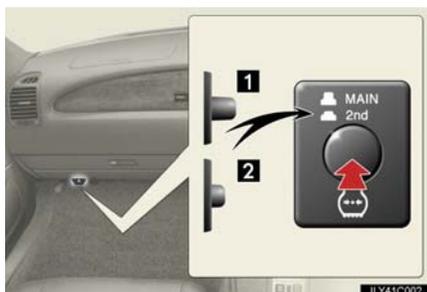
“MAIN”：購入時に搭載されていたバルブ／送信機の ID コード

“2nd”：2 セット目のバルブ／送信機の ID コード

ID コードはレクサス販売店にて登録してもらってください。一度登録した後は、レクサス販売店にてタイヤやホイールを交換するたびに設定を変更してください。

■ ID コードの選択

タイヤを交換したときは、登録してある ID コードから装着したタイヤセットに合った ID コードを選択してください。選択が正しくないと、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しなくなります。



1 MAIN

2 2nd

■超扁平タイヤ（245/40R18 93Y, 245/40ZR18）について

雪道や凍結路では、普通のタイヤと比べてグリップ力が低下します。冬用タイヤかチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■超扁平タイヤ（245/40R18 93Y, 245/40ZR18）の空気圧点検

超扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1カ月に1回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■タイヤがパンクしたときの対処法

ランフラットタイヤ装着車以外とランフラットタイヤ装着車では対処法が異なります。

(→ P. 195, 203)

■ランフラットタイヤの取り扱いについて

- ランフラットタイヤを他の車には使用しないでください。
- ランフラットタイヤとランフラットタイヤ以外のタイヤを混ぜて使用しないでください。
- 純正以外のホイールを使用した場合、ランフラットタイヤの高い機能性が発揮されないおそれがあります。

■正しくタイヤ空気圧警報システムを初期化するには

空気圧を必ず指定された基準圧にして初期化してください。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

通常2、3分で終了します。但し、以下の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。それでもうまくいかないときはレクサス販売店にて点検を受けてください。

- スイッチ操作時に警告灯が点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません。）
- 初期化してから約20分走行した後、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後点灯した場合

■日常点検について

タイヤ空気圧警報システムは、日常の空気圧点検の代用ではありません。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

**警告****■ タイヤの点検、交換時の警告**

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- 同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- 夏用タイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

**注意****■ 超偏平タイヤ（245/40R18 93Y、245/40 ZR18）について**

超偏平タイヤ付きホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため以下のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用してください。
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

 注意

■ **タイヤ空気圧が低いとき**

走行を続けしないでください。
タイヤおよびホイールを損傷することがあります。

■ **タイヤ・ホイール・バルブ／送信機の修理・交換**

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないように注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールをお使いください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

■ **パンクしたタイヤへのパンク修理剤の使用禁止**

タイヤ空気圧バルブ／送信機が損傷します。

■ **悪路走行に対する注意**

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

■ **ホイールオーナメントについて**



ホイールオーナメントをはずさないでください。
ホイールオーナメントが損傷するおそれがあります。

ホイール
オーナメント

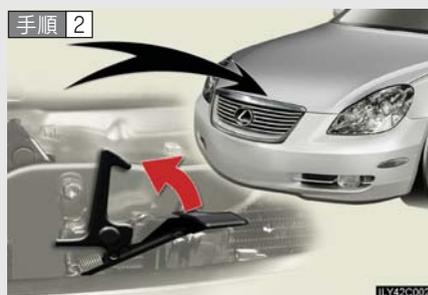
ボンネット

■ ボンネットの開け方

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。



ボンネットオープナーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



レバーを引き上げてボンネットを開ける

警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、またエンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

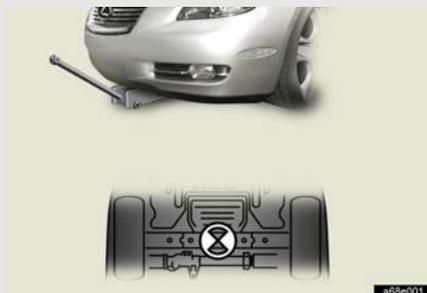
- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などで触れない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

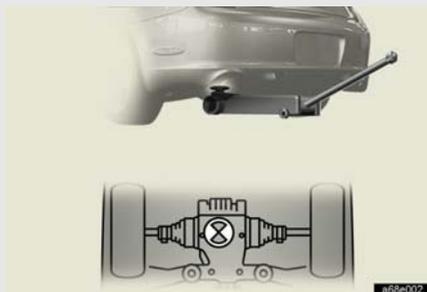
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる時は、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側



■ リヤ側



警告

■ 車両を持ち上げる時は

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。



- 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。
- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。

- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
自動車用ジャッキスタンドまたは硬い水平面を使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。
ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。
また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下に物を置かないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。
詳細が不明な場合や、その他の電球の交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球のワット数を確認してください。（→ P. 230）

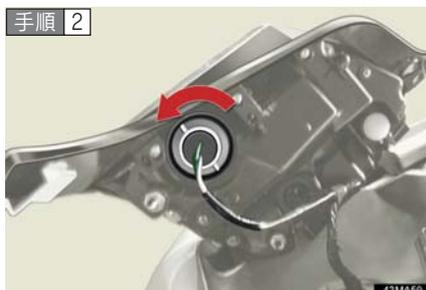


電球交換のしかた

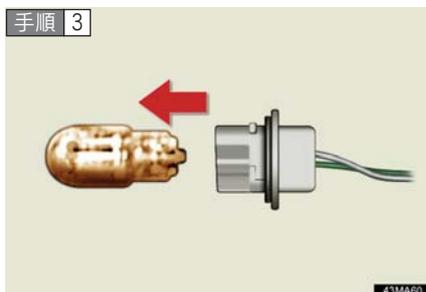
■ リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯



カバーをはずしてから、ネジをはずす

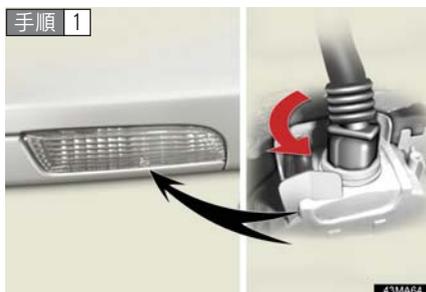


ソケットをまわして取りはずす

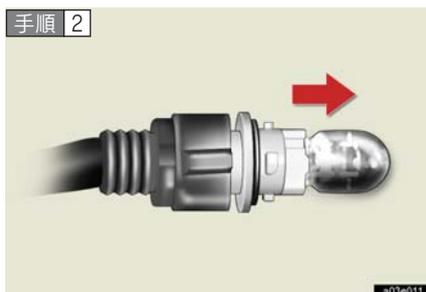


電球を引き抜く

■ 後退灯



ソケットをまわして取りはずす



電球を引き抜く

☐ 知識

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ライト内に水がたまっている

■ ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。電圧が正常に戻ると再点灯します。

警告

■電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどをするおそれがあります。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると、球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により生命にかかわる重大な傷害の原因となります。

■ディスチャージヘッドライトについて



- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。瞬間的に2万ボルトの電圧が発生するため、感電により重大な傷害におよぶか最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

注意

■故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■サイド方向指示灯・制動灯・ハイマウントストップライトについて

サイド方向指示灯・制動灯・ハイマウントストップライトは数個のLEDで構成されています。

もしLEDがひとつでも不灯になったときは、レクサス販売店で交換してください。

ヒューズの点検、交換

ライトが点灯しないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 エンジン スイッチを“LOCK”の位置にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム内ヒューズボックス



ツメを押しながら、カバーを開ける

▶ エンジンルーム内ヒューズボックス



ツメを押しながら、カバーを開ける

▶ 運転席足元ヒューズボックス



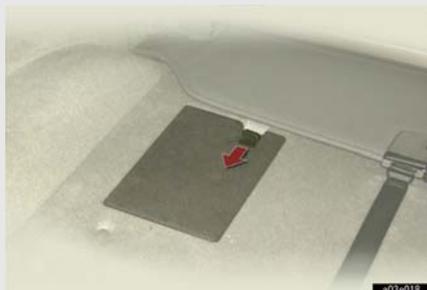
ノブを引いてフタをはずす

▶ 助手席足元ヒューズボックス



ノブを引いてフタをはずす

▶ トランク内ヒューズボックス



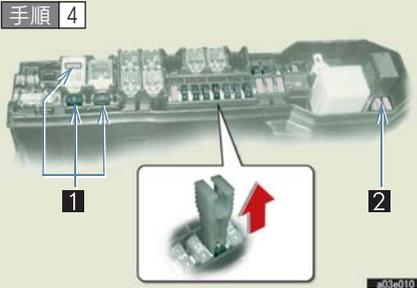
1. ツマミをずらしてカバーをはずす



2. フタをはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」
(→ P. 170) で確認する

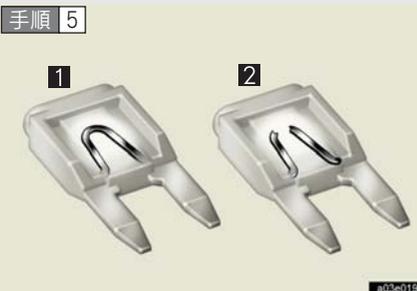
手順 4



ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

- 1 スペアヒューズ
- 2 ヒューズはずし

手順 5



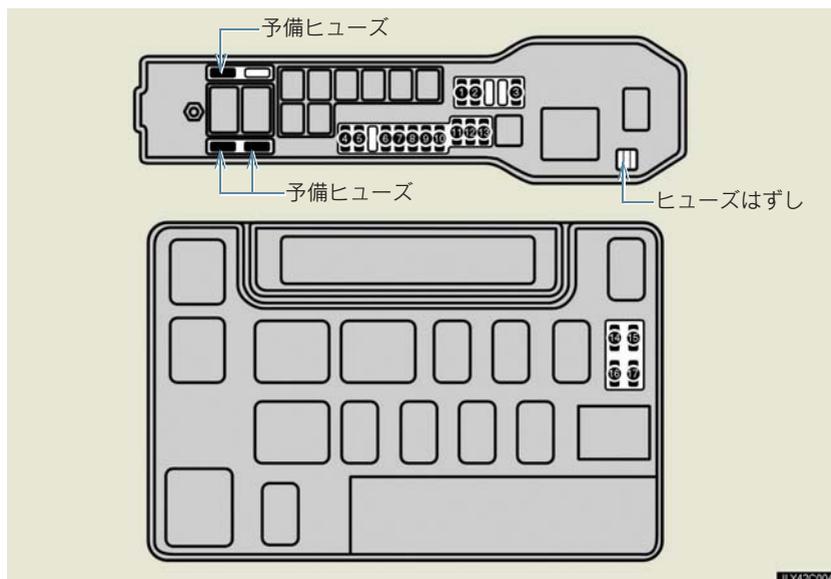
ヒューズが切れていないか点検する

- 1 正常
- 2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスのフタの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

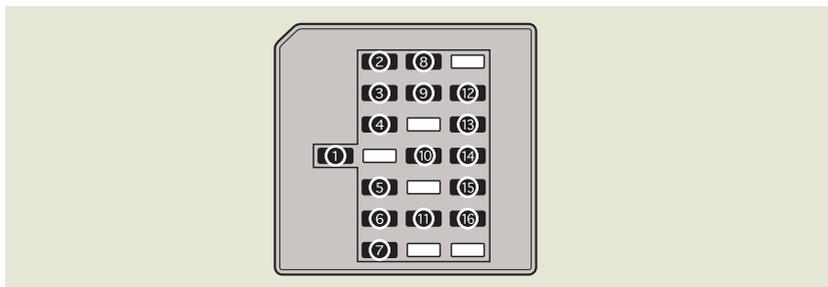
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム内ヒューズボックス



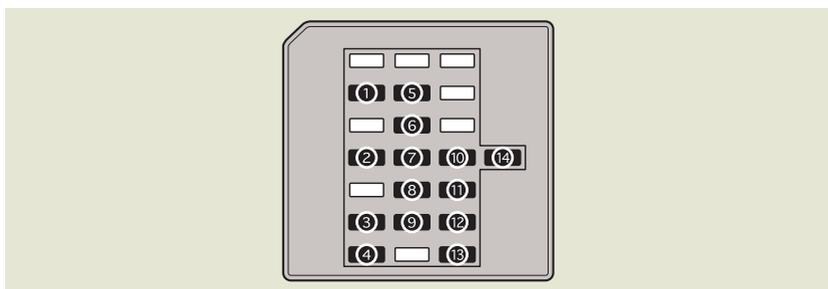
	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
①	H-LP R LWR	15A	ヘッドライト、ロービーム（右側）
②	H-LP L LWR	15A	ヘッドライト、ロービーム（左側）
③	H-LP UPR	20A	ヘッドライト、ハイビーム
④	EFI	25A	EFI 関係
⑤	ALT-S	5A	充電系
⑥	RADIO No.1	30A	オーディオ
⑦	HORN	10A	ホーン、ヘッドライトスイッチ
⑧	ETCS	15A	EFI 関係
⑨	TURN-HAZ	15A	非常点滅灯
⑩	D/C CUT	15A	DOME、MPX-B1、MPX-B2、MPX-B3
⑪	D-DOOR	25A	パワーウインドウ、パワードアロック、 ドアミラー、インナーミラー、 ミラーヒーター、ドアカーテシランプ
⑫	P-DOOR	25A	パワーウインドウ、パワードアロック、 ドアミラー、インナーミラー、 ミラーヒーター、ドアカーテシライト
⑬	IG2 MAIN	20A	EFI 関係
⑭	IGN	5A	ABS、TRC、VSC、EFI 関係、 クルーズコントロール
⑮	INJ	10A	EFI 関係
⑯	STARTER	7.5A	始動系
⑰	EFI No.2	10A	EFI 関係

■ 運転席足元ヒューズボックス



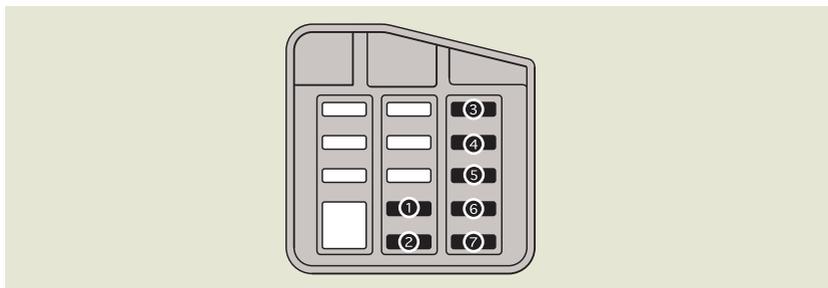
ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
① HEATER	10 A	エアコン
② OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
③ AM 1	5 A	エンジン スイッチ関係
④ ABS-IG	7.5 A	VSC
⑤ SECURITY	7.5 A	盗難警報システム、ホーン
⑥ TAIL	7.5 A	リヤライト関係
⑦ STOP	5 A	制動灯
⑧ D-IG	10 A	メーター、充電系、 プリテンションシステム
⑨ MPX-IG	7.5 A	チルト&テレスコピックステアリング、 SRS エアバッグ、パワーシート パワードアロック
⑩ WIPER	30 A	ワイパー
⑪ PWR OUTLET	15 A	アクセサリソケット
⑫ TI & TE	15 A	チルト&テレスコピックステアリング
⑬ FR DEF	20 A	フロントデフロスター
⑭ PANEL	5 A	エアコン、オーディオ、 シガレットライター、電子制御スロットル、 グローブボックスランプ
⑮ FR FOG	15 A	フロントフォグライト
⑯ D P/SEAT	30 A	パワーシート

■ 助手席足元ヒューズボックス



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
①	WASHER	20 A	ウォッシュャースイッチ
②	A/C	5 A	エアコン
③	P P/SEAT	30 A	パワーシート
④	TV	5 A	テレビ、エレクトロマルチビジョン
⑤	H-LP LVL	10 A	ヘッドライトオートレベリングシステム、AFS コンピューター
⑥	P-IG	10 A	シフトロックシステム、シートヒーター、パワーアンテナ、インナーミラー、盗難警報システム
⑦	SEAT HTR	20 A	シートヒーター
⑧	RADIO No.2	10 A	オーディオ、シートベルト非着用警告灯、シフトロックシステム
⑨	CIG	15 A	シガレットライター
⑩	MPX-B1	7.5 A	パワードアロック、エンジンイモビライザーシステム、パワーシート、メタルトップ関係
⑪	MPX-B3	7.5 A	チルト&テレスコピックステアリング、ライトスイッチ、ワイパースイッチ
⑫	DOME	7.5 A	室内灯関係、アンテナ、オーディオ
⑬	MPX-B2	7.5 A	メーター、VSC、タイヤ空気圧警報システム
⑭	IG2	7.5 A	SRS エアバッグ

■ トランク内ヒューズボックス



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
①	LCE LP	7.5 A	ナンバー灯
②	ROOF RH	20 A	メタルトップ関係
③	FUEL OPN	10 A	フューエルリッド
④	ROOF LH	20 A	メタルトップ関係
⑤	P-TRAY	20 A	クォーターウィンドウ
⑥	LGG LH	20 A	メタルトップ関係
⑦	LGG RH	20 A	メタルトップ関係

 知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 163)
- 取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正または同等のヒューズを使用してください。
一時的であっても、決して銅線でつながないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

ワイヤレスリモコンの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1616

■ 電池交換のしかた



- 手順 1 スクリューをはずす
- 手順 2 カバーを矢印の方向に押しながら取りはずす
- 手順 3 モジュールを取り出す
- 手順 4 2本のスクリューをはずし、モジュールのフタを取りはずす
- 手順 5 +極を上にして新しい電池と交換する

 知識**■ ワイヤレスリモコンの電池が消耗していると**

以下のような状態が起こります。

- ワイヤレスリモコンが作動しない
- 作動距離が短くなる
- 本体の作動表示灯が暗い、または点灯しない

■ リチウム電池 CR1616 の入手

電池はレクサス販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電池交換終了後の作動確認

いずれかのスイッチを押すと、ワイヤレスリモコンの作動表示灯が点灯することをご確認ください。

 **警告****■ 取りはずした電池と部品について**

お子様に触らせないでください。
部品は小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせるおそれがあります。

 **注意****■ 交換後、正常に機能させるために**

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品を、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- モジュール内部に、ゴミや油などが付着しないように注意する
- スクリュー・Oリングなどを紛失しないよう注意する
- モジュールのフタを取り付けるとき、Oリングに傷をつけたり、ねじって取りつけないように注意する

4-2. 簡単な点検・部品交換

ウォッシャー液の補給



フタを開けて補給する

⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液のみを使う

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水や冷却水などを入れないでください。車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液の薄めかた

必要に応じて水で薄めてください。

水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

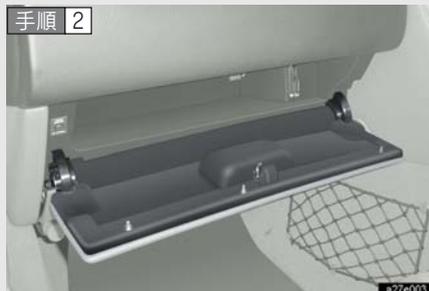
4-2. 簡単な点検・部品交換 エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ 交換のしかた

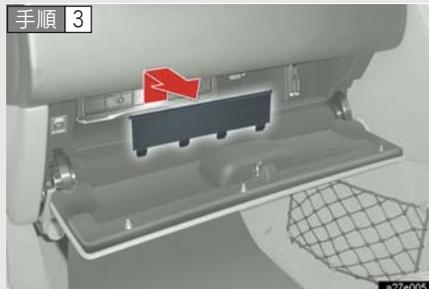
手順 1 エンジン スイッチを“LOCK”の位置にする

手順 2



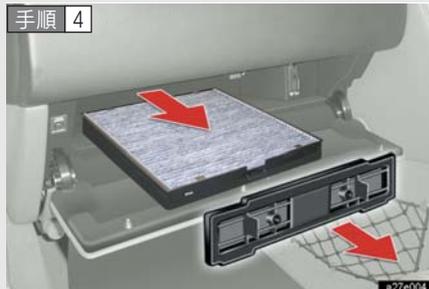
グローブボックスを開く

手順 3



グローブボックスの奥にあるカバーをはずす

手順 4



フィルターカバーを取りはずしフィルターケースを手前に引き抜く



知識

■ 交換時期

15,000km[10,000km[※]] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

■ フィルターについて

フィルターは交換するタイプです。

水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

5-1. まず初めに

非常点滅灯	182
発炎筒	183
けん引について.....	185

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	188
パンクしたときは （ランフラットタイヤを 除く）.....	195
パンクしたときは （ランフラットタイヤ）.....	203
エンジンがかからない ときは	204
シフトレバーがシフト できないときは.....	205
キーを無くしたときは.....	206
バッテリーがあがった ときは	207
オーバーヒートした ときは	210
スタックしたときは.....	212
メタルトップが閉まらない ときは	213

5-1. まず初めに 非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

5-1. まず初めに 発炎筒

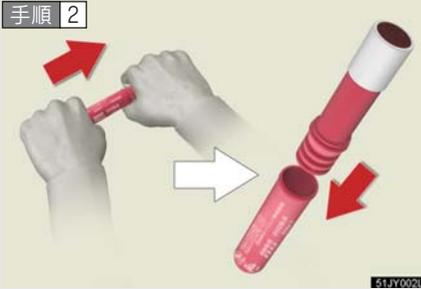
事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

手順 1



助手席足元の発炎筒を取り出す

手順 2



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む

手順 3



先端のフタを取りはずし、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる



■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期限がきれる前に、レクサス販売店でお求めください。



■ 発炎筒が使用できない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子様に触らせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

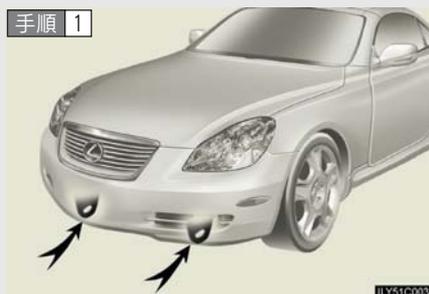
■ けん引する前に

以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引してもらうときは

手順 1



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 2



ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm × 30cm) 以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。



■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。



■けん引中の運転について

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、まちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- エンジン スイッチからキーを抜いたり、エンジン スイッチを“LOCK”の位置にしないでください。
キーが抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、“LOCK”の位置にあるとキーが抜けるおそれがあります。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

 注意**■ 車両の損傷を防ぐために**

- けん引するときは以下のことを必ずお守りください。
 - ・ リヤ側フックは絶対に使わない
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない。
- この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷をあたえるおそれがあります。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効が悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	<p>ブレーキ警告灯（警告ブザー）※</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ倍力装置系統の異常 <p>パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。</p>

※ **ブレーキ警告ブザー**：ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

※ **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー**：パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h になるとブザーが鳴ります。

警告

■ 警告灯が ABS & ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのときは

この場合 ABS & ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

ただちに停車してください。

以下の警告は車へのダメージや思わぬ危険をまねくおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	<p>充電警告灯 充電システムの異常</p>
	<p>油圧警告灯 エンジンオイル圧力の異常</p> <p>エンジンオイル量が減っている場合も点灯することがあります。 点検・補給後、消灯すれば正常です。</p>

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障をまねくおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ警告灯／プリテンショナー警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
	AFS OFF 表示灯（点滅したとき） <ul style="list-style-type: none"> ・ AFS システムの異常 ・ オートレベリングシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常
	VSC OFF 表示灯（点滅したとき） ビークルスタビリティコントロール（VSC）システムの異常
	タイヤ空気圧警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ タイヤ空気圧警報システムの異常（約 1 分間点滅後点灯したとき） ・ タイヤ空気圧の低下（点灯したとき）→ P. 194
	リヤライト異常警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ 尾灯の異常 ・ 制動灯の異常 ・ 番号灯の異常

 知識

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯したときは

▶ ランフラットタイヤ

手順 1 すみやかに停車し、タイヤ空気圧を点検・調整する

手順 2 すぐに調整できないときや、調整後、再び点灯するときは最寄りのレクサス販売店まで低速で走行する

▶ ランフラットタイヤを除く

手順 1 すみやかに停車し、タイヤ空気圧を点検、調整する

調整後、再び点灯するときは、パンクの可能性があります。

手順 2 パンクしている場合は、応急用タイヤに交換する（→ P. 195）

応急用タイヤ装着時は警告灯が点灯したままになります。

■ タイヤ空気圧警告灯について

温度による空気圧の変化や、自然的に空気圧が減少した場合にも点灯します。タイヤに異常が無いときは、適切な空気圧に調整して警告灯が消灯すれば正常です。

■ タイヤ空気圧警報システムについて

以下のような条件では、システムが正しく作動しない場合があります。

- 空気圧バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用している場合
- 空気圧バルブ／送信機の ID が ECU に登録されていない場合
- 近くに同じような無線周波数を使っている施設、器具がある場合
- 車内で同じような無線周波数を使っている電子機器を使用している場合
- 車両（特にホイール、ホイールハウスの周り）に多くの雪、氷などがついた場合
- 純正ホイール以外を使用している場合
- タイヤチェーンを装着している場合
- タイヤ空気圧が異常に高すぎる場合（500kPa 以上）
- ID コードが誤って選択されている場合

なお、タイヤ空気圧警告灯の約 1 分間点滅後の点灯状態が続く場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

 警告

■ **タイヤ空気圧警告灯が点灯したときは**

- 急な操作、急ブレーキをしないでください。
コントロールを失い重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- ランフラットタイヤ装着車以外はただちに減速してください。
ランフラットタイヤ装着車は、状況が許す最も適当な速度まで減速してください。
(速度 90km/h 以下、距離 160km 以内)

■ **バーストや突発的なエア漏れの際は**

タイヤ空気圧警報システムはすぐに作動しないことがあります。

 注意

■ **タイヤ交換時の注意**

タイヤの種類によってはタイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

■ **空気圧が低下した状態で走行するとき（ランフラットタイヤ装着車）**

- タイヤ空気圧が低下した状態では、タイヤのクッション性能が劣るため、路面の穴、縁石の乗り上げなどには注意してください。車体を損傷するおそれがあります。
- タイヤ空気圧が低下すると、車高が低くなるため、障害物は避け、荒れた路面、未舗装路、道路の凹凸などはゆっくり通過してください。また自動洗車機にかけると、車体を損傷するおそれがあります。

■ **タイヤ空気圧警報システムについての注意**

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方が変わり、システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤの種類によっては、純正ホイールを使用してもバルブ／送信機が正常に作動しない事があります。(例：スチールフィラー入りタイヤ)
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および約 1 分間点滅後の点灯は、初期化スイッチ操作 (→ P. 153) では解除できません。

ただちに処置してください

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	油量警告灯 エンジンオイルの不足	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※1 いずれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていない	すべてのドア、およびトランクを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量 (約 11 L 以下)	燃料を補給
	ウォッシャー液量警告灯 ウォッシャー液の不足	ウォッシャー液を補給
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	助手席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	タイヤ空気圧警告灯	
	タイヤ空気圧の低下 (点灯したとき)	タイヤ空気圧を調整する
	タイヤ空気圧警報システムの異常 (約1分間点滅後点灯したとき)	→ P. 190

- ※ 1 半ドア走行時警告ブザー : 半ドア (トランク含む) のまま、車速が約 5km/h になるとブザーが鳴ります。
- ※ 2 シートベルト非着用警告ブザー: シートベルトを非着用のまま、車速が約 20km/h になるとブザーが鳴ります。

知識

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ メタルトップ半開警告ブザーについて

メタルトップが全開または全閉でないまま走行するとブザーが鳴ります。

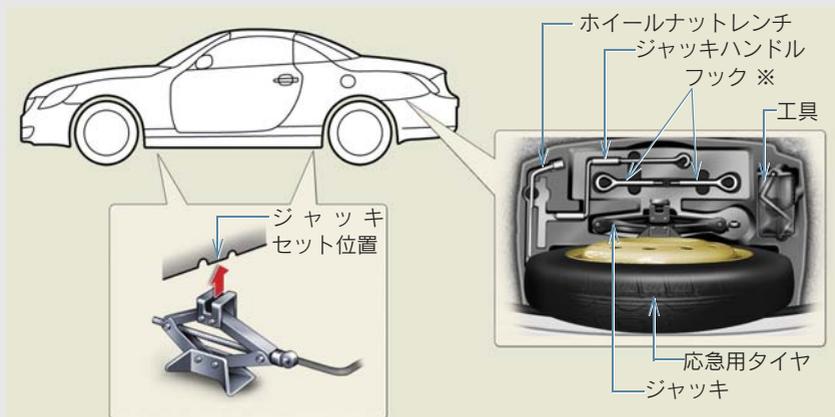
パンクしたときは（ランフラットタイヤを除く）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 151 をご覧ください。）

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所へ移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ ジャッキの場所とジャッキセット位置



※ このフックは、船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。
けん引には絶対に使用しないでください。

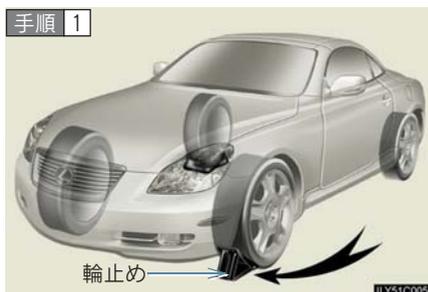
■ 応急用タイヤ



トランク内に格納されています。
応急用タイヤは、緊急時に一時的に
使用するタイヤです。

パンクしたタイヤの交換

手順 1

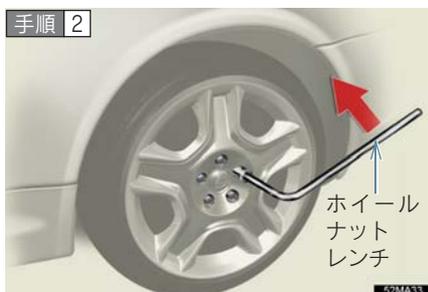


輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止め位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

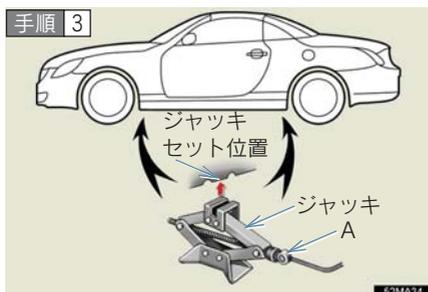
※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

手順 2

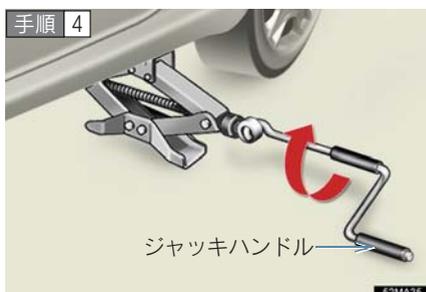


ナットを少し (約 1 回転) 緩める

手順 3



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける



タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げる

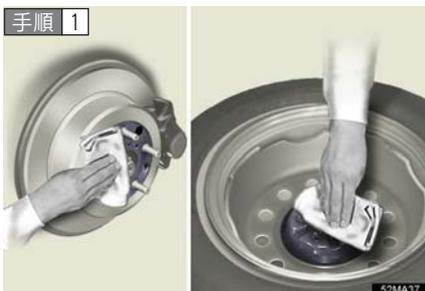


ナットをすべて取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないように意匠面を上にしてください。

応急用タイヤの取り付け

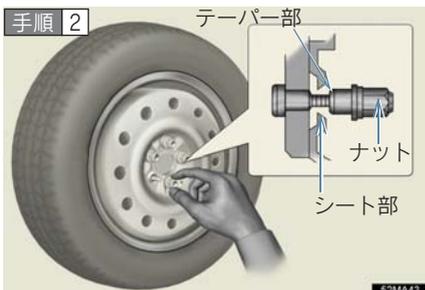
手順 1



ホイール接地面の汚れをふき取る

ホイール接地面が汚れていると走行中にナットが緩み、タイヤがはずれるおそれがあります。

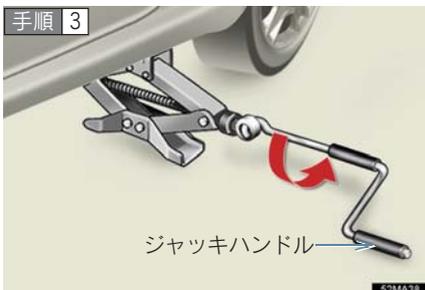
手順 2



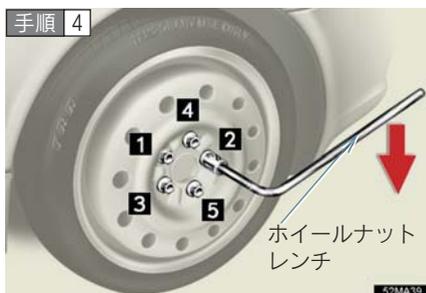
応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

テーパ部がホイールのシート部に軽く当たるまでまわします。

手順 3

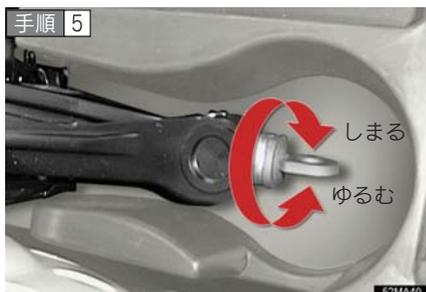


車体を下げる



図の番号順でナットを2～3度にわたりしっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m
(1050kgf・cm)



すべての工具、ジャッキ、パンクしたタイヤを収納する

- ジャッキを収納するときは、キャリアにしっかり固定してください。
- パンクしたタイヤをトランクに収納すると、メタルトップを開くことはできません。

知識

■ 応急用タイヤについて

- 応急用にのみお使いください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→ P. 155)
- 応急用タイヤにはタイヤ空気圧バルブ／送信機が装着されていないため、応急用タイヤ装着時はタイヤ空気圧警告灯が点灯したままとなります。



警告

■ ジャッキの使用について

- ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して、死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことを必ずお守りください。
 - ・ ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
 - ・ 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないので他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
 - ・ ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ・ ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
 - ・ ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - ・ 車内に人をのせたまま車を持ち上げない
 - ・ 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
 - ・ 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - ・ 車の下にもぐりこんで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ タイヤ交換について

- けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわり、排気管などにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわり、排気管などは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 以下のことをお守りいただかないとナットが緩み、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットが緩みホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに $103\text{N}\cdot\text{m}$ ($1050\text{kgf}\cdot\text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

**警告****■ 応急用タイヤを使用するときは**

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100km/h以上の速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があります、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS & ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- ナビゲーションシステム

 注意

■ **パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ **応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■ **応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤにはタイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪として使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。

■ **応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。**

タイヤが冷えているときの空気圧：420kPa(4.2kg/cm²)

パンクしたときは（ランフラットタイヤ）

ランフラットタイヤは、パンクした場合でもしばらくは走行可能です。パンクしたときは、なるべく速度を落とし、慎重に運転してください。ランフラットタイヤ装着車には、応急用タイヤは装着されていません。（タイヤについての詳しい説明は P. 151 をご覧ください。）



ランフラットタイヤがパンクしたときは、以下の点に注意して走行し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。

- 90km/h 以下で走行する※
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける

※ ただし、気候や走行状況などによっては 90km/h 以下でも、スピードを出せないことがあります。

警告

■ パンク後の走行可能距離

タイヤがパンクしたあとは、160km 以上走行しないでください。

注意

■ 段差を乗り越えるときは

タイヤがパンクしているときは、通常に比べ車高が低くなっているため、ご注意ください。

■ 液体のパンク補修剤の使用禁止

お使いになると、空気圧バルブ／送信機が損傷するおそれがあります。

■ パンクしたタイヤの再利用禁止

パンクしたタイヤを補修して使用しないでください。

■ 自動洗車機の使用禁止

タイヤがパンクした状態では、車が洗車機と接触し損傷するおそれがあるので、自動洗車機を使用しないでください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 83）にしたがっても、エンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 83）に従って、エンジンをかけてください。
このとき、エンジン スイッチを少し長め（約15秒以内）に操作してください。

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 207）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 207）

上記の内容を確認しても、エンジンがかからないときは、エンジンイモビライザーシステムが働いている、または故障している可能性があります。（→ P. 54）

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

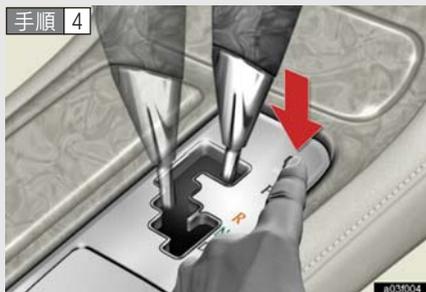
ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 エンジン スイッチを“ACC”にする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4



シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーをシフトする

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのマスターキーから、レクサス販売店でレクサス純正品のキーを作ることができます。
(→ P. 16)

 知識

■ **マスターキーの紛失について**

マスターキーを紛失しないように注意してください。

すべてのマスターキーを紛失すると、キー作製時にコンピューターの交換が必要になります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ **ワイヤレスリモコンについて**

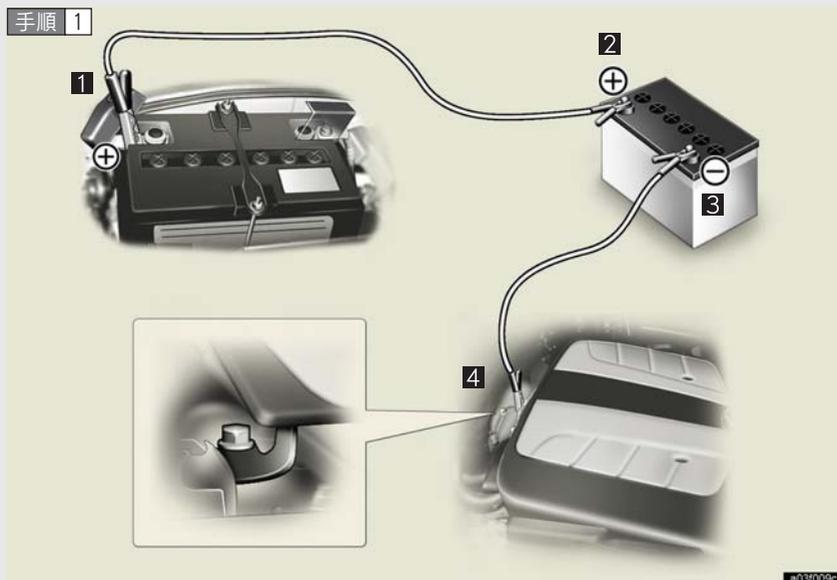
盗難・事故などを防ぐため、ワイヤレスドアロックを作動させなくすることができます。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。



ブースターケーブルを次の順につなぐ

- 1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- 2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- 3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- 4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めににして、約5分間自車のバッテリーを充電する

手順 3 救援車のエンジン回転数を維持したまま、自車のエンジンをかける

手順 4 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順ではずす

エンジンがかかっても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

 知識

■ **バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ **バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ **バッテリーがはずされたり、バッテリーが上がってしまった場合は**

- 盗難防止システムは作動しなくなります。
ただし、再接続した場合などに、警報することがありますので、交換などの際はご注意ください。
- シート、パワーウィンドウの初期設定が必要な場合があります。(→ P. 28, 45)
- ナビゲーション等のいくつかの設定およびデータが消去されることがあります。
詳しくは、レクサス販売店にお問い合わせください。

**警告****■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないように以下のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルは“+”と“-”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付かないようにする
- バッテリーに寄りかかたりしない
- 誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- バッテリーの取り付け金具、ターミナル、その他の関連部品を取り扱い後は手を洗う
- お子様をバッテリーに近づけない

**注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを停止する

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：エンジンを停止する
蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

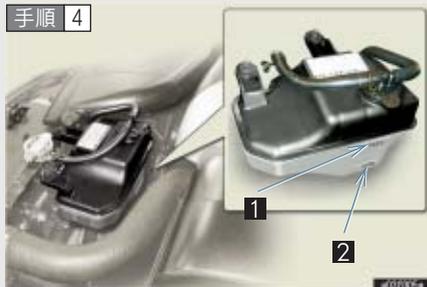
蒸気が出ていない場合：エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：すぐにエンジンを停止して、レクサス販売店に連絡する

手順 4



エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する

1 FULL（上限）

2 LOW（下限）

手順 5



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水が無い場合は、応急処置として水を補給する。

手順 6 早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

 知識**■ オーバーヒートとは**

以下の状態がオーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

 **警告****■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために**

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、手や衣服などをファンやベルトから離してください。
ファンやベルトなどの回転部分に触れたり近づいたりすると、手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

 **注意****■ 冷却水を入れるときの注意**

エンジンが十分冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルペダルを踏む

TRC、VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。
(→ P. 110)



警告

■ 脱出するときの警告

前進と後退をくり返してスタックから脱出するときは、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合は、けん引による救援が必要です。

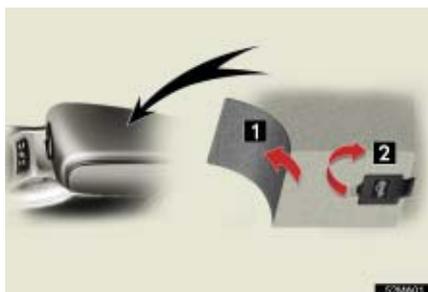
メタルトップが閉まらないときは

すべての作動条件が成立しているかを確認してください。(→ P. 48)
作動条件が成立しているのに閉まらないときは、次の手順で手動により閉めることができます。

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受けてください。

手順 1 トランクを解錠する

トランクオープナーを押して、トランクを解錠します。

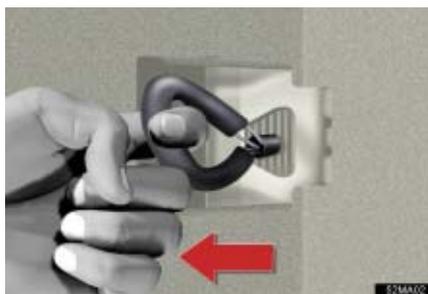


トランクオープナーが作動しないときは、次の手順でトランクを解錠する

1 マット

2 カバー

1. コンソールボックスの下端側を開け、マットをめくる
2. カバーをはずす
3. ワイヤーを引く

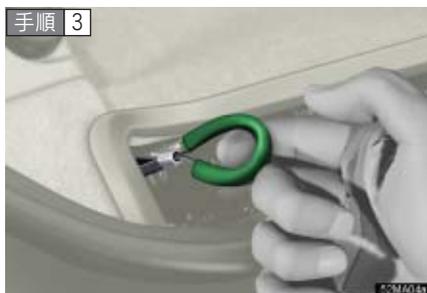


手順 2



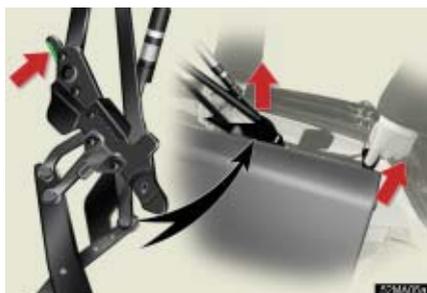
トランクを完全に開ける

手順 3



トランクリッドを水平位置まで持ち上げる

1. トランク後方の両側に固定されている緑色のループ（ワイヤーの取っ手部分）を取り出す

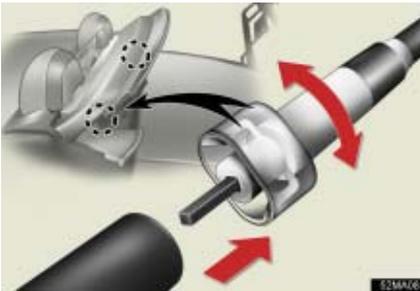
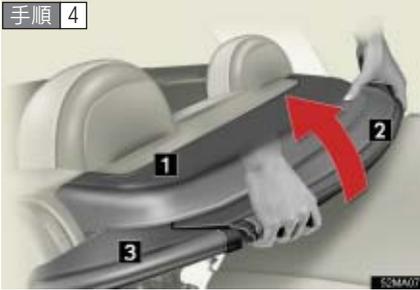


2. 片方の手でワイヤーを引っ張りながら、もう片方の手でラゲージリング前側の緑色部分を持ち上げる



3. トランクリッドを徐々に持ち上げる

手順 4



パッケージトレイを持ち上げる

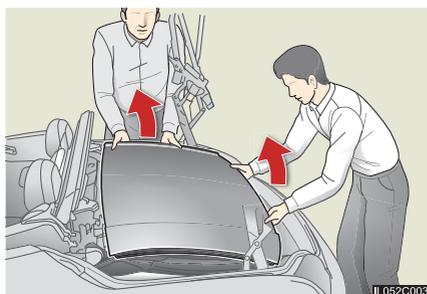
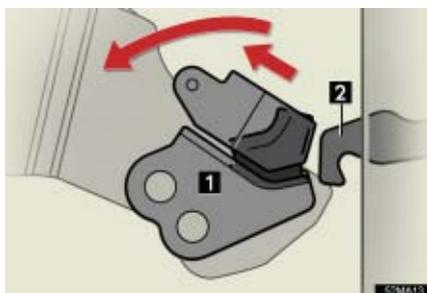
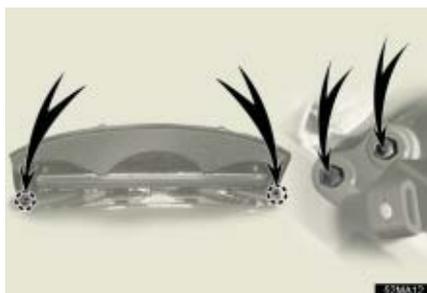
- 1 メインボード
- 2 スライドボード
- 3 サイドボード

1. スライドボードに手をかけて、パッケージトレイを 30° から 45° 持ち上げる

2. パッケージトレイの下にあるケーブルのジョイントをはずす

3. パッケージトレイを徐々に、止まるまで持ち上げる

4. スライドボードを、メインボードと重なるように収納する



ルーフパネルを半分まで閉める

1. トランクから六角レンチを取り出す

2. 六角レンチの長い方を使用し、2本のボルトをはずす

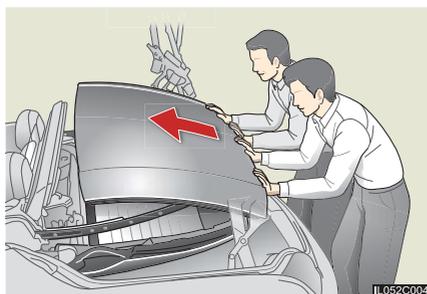
1 ルーフストッパー

2 フック

3. ルーフストッパーを前方にずらしてフックをストッパーからははずす

4. ルーフパネルをゆっくりと持ち上げる

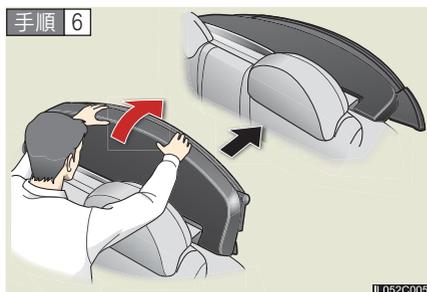
1人がルーフパネルのうしろ側に手を入れ、少し持ち上げ、もう1人が車両横側より、ルーフパネル前側を持って行きます。



5. ルーフが上がってきたら、2人とも車両後方へ移動し、車両前方へ押す



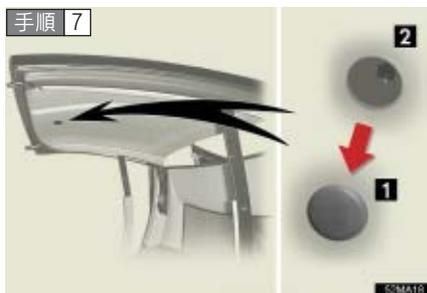
6. この位置で止める



手順 6

パッケージトレイを倒す

スライドボードがメインボードと重なっていることを確認してから、後方に倒します。イラストの位置に必ず手を置いてください。

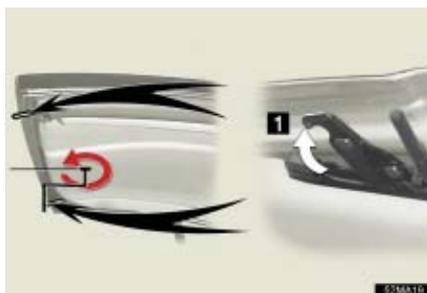


ルーフパネルを完全に閉じる

1 カバー

2 シャフト

1. マイナスドライバーなどを使用して、ルーフパネル裏側のカバーをはずす

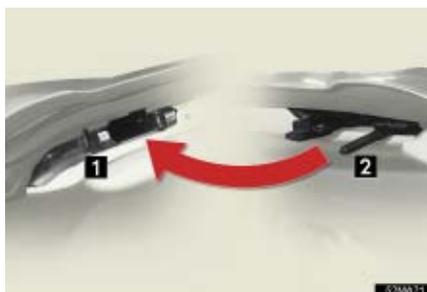


1 フック

2. 六角レンチの短い方をシャフトに差し込み下側から見て反時計回りに約1回転まわす
ルーフパネルからフックが出ていることを確認します。



3. ルーフパネルとリヤウィンドウを持ちゆっくり閉める



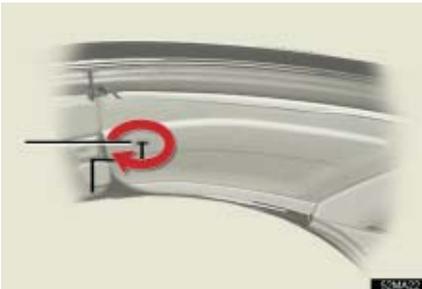
1 ガイドホール

2 ガイドピン

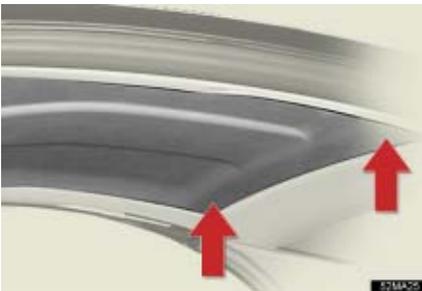
4. ルーフパネル先端のガイドピンがフロントウィンドウ枠先端のガイドホールにはまっていることを確認する



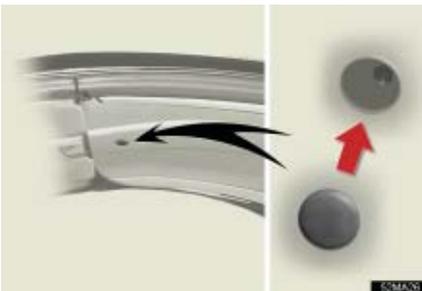
5. ルーフパネルとリヤウインドウの分割部分付近を押し下げる



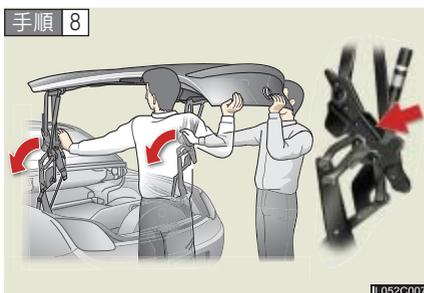
6. 六角レンチの短い方をシャフトに差し込み、下側から見て時計回りに約1回転まわす



7. 車内からルーフパネルとリヤウインドウの分割部分付近を押し、ルーフが確実に固定されているか確認する



8. はずしたカバーを取り付ける



ラゲージリンクの後方に手をあてて、トランクリッド前側をゆっくりと押し下げる

完全に動かなくなるまで押し下げたら、その位置でさらに下方へ強く押してください。



トランクを閉じる

通常通りトランクを閉めます。

知識

■ この作業は2人いないとできません

相当な力や技術が必要な作業も含まれます。

他に人がいないときや、自信のない方は、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

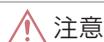
なお、作業の中には、素手で行うとけがをする作業があります。手袋や布切れなどで手を保護して行ってください。

 **警告****■手動でメタルトップを閉じるときは**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 安全で平らな場所に車を止めてください。
- パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを P に入れてください。
- 車内に人がいるときは、作業を行わないでください。
- 風が強いときは、作業を行わないでください。
- メタルトップが部分的に閉じた状態のときは、エンジン スイッチを“LOCK”または“ACC”の位置にしておいてください。
- ラゲージリンクを上げるときは、手袋をはめるか、手のあたるところに布切れをあててください。
- ラゲージリンクに手を挟まないよう注意してください。
- ラゲージリンクがしっかりと起き上がるまで、作業を途中で止めないでください。
- トランクリッドを持ち上げるときは、リッドが頭の近くを通過するので注意してください。
- パッケージトレイを上げる場合、ジョイントをはずすときは、手にけがをしないよう注意してください。
- ルーフパネルを途中まで閉めるときは、リヤウインドウが地面に対し、垂直になるまで作業を止めないでください。
- ルーフパネルを全閉にするときは、手を挟まないよう注意してください。
- トランクリッドの前側を閉じるときは、手袋をはめるか、手のあたるところに布切れをあててください。



注意

■ 手でメタルトップを閉じるときは

ラジオ用アンテナを損傷しないよう、オーディオをオフにしてアンテナを格納してください。

■ ラゲージリンクを上げるときは

ラゲージリンクの緑色部分以外に力を加えないでください。

■ パッケージトレイを上げるときは

サイドボードに力を加えないでください。サイドボードはメインボードに連動して動きます。

■ ルーフパネルを途中まで閉めるときは

- 六角レンチの短い方は使用しないでください。
- リヤウィンドウが地面に対し垂直になるまで作業を止めないでください。また、垂直になったらそれ以上動かさないでください。車両やパッケージトレイを損傷するおそれがあります。

■ ルーフパネルを全閉するとき

六角レンチが約1回転して止まったら、それ以上回さないでください。

■ メタルトップ機構が故障しているときは

低速で走行してください。スピードが上がると、トランクが開くおそれがあります。

クォーターウィンドウの開め方

クォーターウィンドウは以下のように電動で閉めることができます。

- 手順 1 エンジン スイッチを “ON” にする
- 手順 2 トランクオープナーメインスイッチを、いったん使用可能にしてから使用不可能にする (→ P. 24)
- 手順 3 メタルトップ開閉スイッチを手順2の操作後、10 秒以内に OPEN 側をゆっくりと2回押す
- 手順 4 手順3の操作後、10 秒以内に CLOSE 側を押し続ける

警告

■ クォーターウィンドウを開めるときは



乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子様へは手などを出さないよう声かけをしてください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車両仕様

6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料、
オイル量など） 226

6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 231

6-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 233

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。レクサス車には、最も適した弊社純正オイル・液類のご使用をおすすめします。

弊社純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L] (参考値)
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	75

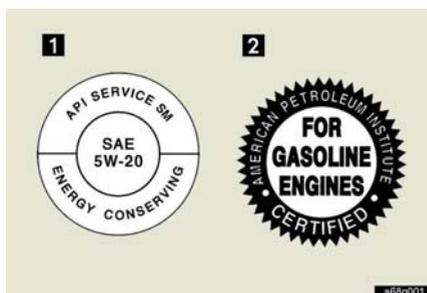
エンジンオイル

銘柄	容量 [L] (参考値)	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
弊社純正モーターオイル SM 5W-30 － API SM,EC/ILSAC GF-4 SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SM 10W-30 － API SM,EC/ILSAC GF-4 SAE 10W-30 弊社純正モーターオイル SL 5W-20 ※ － API SL,EC SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SL 10W-30 － API SL,EC SAE 10W-30	4.6	5.2

※ 5W-20 は最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC または、ILSAC 規格合格油をおすすめします。
 なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークがついています。

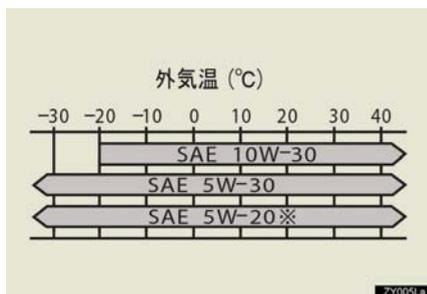


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 5W-20 は最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 5W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 5W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	容量 [L](参考値)
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12℃ 濃度 50% -35℃	9.9

オートマチックトランスミッション

銘柄	容量 [L](参考値)
弊社純正オートフルード WS	8.6

リヤディファレンシャル

銘柄	容量 [L](参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT - API GL-5,SAE75W-85	1.35

パワーステアリング

銘柄	容量 [L](参考値)
弊社純正パワーステアリングフルード	0.9

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄

弊社純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	0.2 ~ 2.0
踏み込んだときの床板とのすき間 (エンジン ON で踏力 200 N {20 kgf} のとき)	100 以上

■ パーキングブレーキ

項目	基準値
踏みしろ 操作力 300N {30 kgf} のときのノッチ※数	7 ~ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチツ” という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L](参考値)

4.5

タイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa(kg/cm ²)
前輪 (245/40 ZR18, 245/40 R18 93Y)	230 (2.3)
後輪 (245/40 ZR18, 245/40 R18 93Y)	230 (2.3)
応急用タイヤ* (T145/70 R17 106M)	420 (4.2)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球 (バルブ)

電球		W(ワット)数
車外	ヘッドライト ハイビーム (HIR1) ロービーム (ディスチャージヘッドライト: D4S)	65 35
	車幅灯	5
	フォグライト (H3)	55
	フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 [※]	21
	リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯 [※]	21
	後退灯	21
	車内	インテリアライト / フロントパーソナルライト
バニティミラーライト		1.5
ドアカーテシライト		3.8
足元照明		1.4
トランクライト		3.8

※ アンバーバルブ (オレンジ色の電球) です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
SC430	UZZ40	3UZ-FE (4.3L ガソリン)	FR (後輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

車には個別に設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。
 レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレス リモコン (→ P. 17)	リモコンの作動	あり	なし
	リモコンによる解錠設定	1回押しで 全ドアが解錠	1回押しで 運転席ドアのみ解錠 連続2回押しで 全ドア解錠
	作動完了時の非常点滅灯の 点滅	あり	なし
	作動完了時のブザー	あり	なし
	作動完了時のブザー音量	お好みの音量に調整可能	
	半ドアウォーニング機能	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかった ときの自動施錠の時間	30秒	60秒 120秒
	トランク解錠機能	あり	なし
	トランク解錠時の操作	1回長押し	2回押し 1回短押し
ドアロック (→ P. 19)	キーによる解錠	1回操作で 全ドアが解錠	1回操作で 運転席ドアのみ解錠 連続2回操作で 全ドア解錠
	運転席ドアを開けたときの全 ドア解錠	なし	あり
	シフトレバーをPにしたと きの全ドア解錠	あり	なし
	シフトレバーをP以外にし たときの全ドア施錠	なし	あり
	車速感応式ドアロック	あり	なし

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ヘッドライト 自動点灯システム (→ P. 98)	照度センサーの感度調整	お好みの感度に調整可能	
	ライトを点灯させるまでの時間	標準	長め
パワー ウインドウ (→ P. 44)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開けるときのみ作動 閉めるときのみ作動
	ワイヤレスリモコン 連動機能	あり (開作動)	なし
イルミネー ション (→ P. 127)	イルミネーテッドエントリー システム作動時のライト消灯 時間	お好みの時間に調整可能	
ハンドル (→ P. 39)	オートチルトアウェイ& オートリターン機能	あり	なし
ワイパー (→ P. 102)	停車時作動切り替え機能	あり	なし
	液だれ防止機能	あり	なし

初期設定が必要な項目

以下の項目は、バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行った後などに、システムを正しく動かせるため初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
シート	<ul style="list-style-type: none">● バッテリーの充電・交換後の再接続時● ヒューズ交換後	P. 28
パワーウィンドウ	<ul style="list-style-type: none">● バッテリーの充電・交換後の再接続時● ヒューズ交換後	P. 45
タイヤ空気圧警報システム	走行速度、重量変化等でタイヤ空気圧を変更した場合	P. 153

さくいん

略語一覧.....	236
五十音順さくいん.....	237
症状別さくいん.....	245

ナビゲーションシステムおよびエレクトロマルチビジョンに関わる装備（オーディオなど）は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
AI	アーティフィシアル・インテリジェンス
ECU	エレクトリックコントロールユニット
ETC	エレクトロニックツールコレクション
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

あ	アクセサリソケット	140
	足元照明（前席）	127
	アダプティブフロントライティング システム	99
	AFS OFF スイッチ	99
	表示灯	99, 190
	アンチロックブレーキシステム.....	109
	アンテナ※	

い	イグニッションスイッチ	
	キー	16
	エンジン（イグニッション） スイッチ	83
	イルミネーテッド エントリーシステム	127
	インテリアライト	128
	インナーミラー	40

う	ウインカー（方向指示灯）	
	W 数	230
	操作	90
	電球の交換（リヤのみ）	164
	ウインドウ	
	リヤウインドウデフォグガー （曇り取り）	126
	ウインドウロックスイッチ	44
	パワーウインドウ	44
	ウォーニング（警告）	96, 188
	ウォッシュャー	
	液の補給	178
	操作	102
	タンク容量	229
	運転	
	寒冷時の運転	115
	正しい運転姿勢	57
	手順	76

	運転席シートベルト	
	非着用警告灯	193

え	エアコン	
	オートエアコン	120
	エアコンフィルターの交換	179
	エアバッグ	
	SRS エアバッグ	58
	一般的な警告	63 ~ 66
	お客様のための注意	63, 64
	改造・修理・廃棄	66
	警告灯	190
	作動条件	59 ~ 61
	正しい姿勢	57
	配置	58

	エンジン	
	エンジン（イグニッション） スイッチ	83
	エンジンイモビライザー システム	54
	エンジンオイル	226
	エンジン回転計 （タコメーター）	93
	エンジンがかからない	204
	エンジンキー照明	127
	かけ方	83
	警告灯	190
	ボンネット	159

お	オーディオ※	
	オートアラーム	55
	オートエアコン	120
	オートチルトアウェイ& オートリターン機構	39
	オートマチックトランス ミッション	85

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

オートレベリングシステム	100	き キー	16
オーバーヒートしたときは	210	キー閉じ込み防止機能	22
オープナー		キーナンバープレート	16
給油口	51	キー抜き忘れ防止ブザー	22
トランク	24	キーを無くした	206
ボンネット	159	ワイヤレスドアロック	17
応急用タイヤ	195	キーレスエントリー	17
お子様の安全のために		給油口の開け方	51
ウインドウロックスイッチ	44	緊急時シートベルト固定機構	35
エアバッグに関する警告 ... 63 ~ 65		緊急時の対処	
お子様のシートベルト着用	36	エンジンがかからない	204
シートヒーターに関する警告 ... 141		オーバーヒートした	210
シートベルトに関する警告 .. 37, 38		キーを無くした	206
チャイルドシートについての		警告灯がついた	188
警告	72 ~ 74	けん引	185
トランクに関する警告	25, 26	スタックした	212
バッテリーに関する警告	209	シフトレバーがシフト	
パワーウィンドウに		できない	205
関する警告	46	発炎筒	183
メタルトップに関する警告	49	バッテリーがあがった	207
ワイヤレスリモコンの電池に		パンクした	195, 203
関する警告	177	メタルトップが閉まらない	213
オドメーター	93	< 空気圧 (タイヤ)	155
オドメーター/トリップメーター		クォーターウィンドウの閉め方	
切り替えボタン	93	(緊急時)	223
か 外気温度表示	120	区間距離計	
外装の手入れ	146	(トリップメーター)	93
カスタマイズ機能	231	曇り取り	
ガソリン		フロントガラス	121
種類、容量	226	ミラーヒーター	126
ガソリンスタンドでの情報	250	リヤウインドウデフォッガー ...	126
カップホルダー	134	クルーズコントロール	
ガレージジャッキ	161	操作	105
寒冷時の運転	115	表示灯	95
寒冷地用ワイパーブレード	116		

グローブボックス	
操作	130
ライト	130

け 計器（メーター）..... 93

警告灯	
概要	96
ABS	190
AFS OFF（点滅したとき）.....	190
SRS エアバッグ	190
VSC OFF（点滅したとき）.....	190
ウォッシュャー液量	193
エンジン	190
シートベルト非着用	193
充電	189
タイヤ空気圧	190, 194
燃料残量	193
半ドア	193
プリテンショナー	190
ブレーキ	188
ブレーキアシスト	190
油圧	189
油量	193
リヤライト異常	190

警告ブザー

キー抜き忘れ防止	22
シート	27
シートベルト非着用	194
シフトレンジダウン制限	88
パーキングブレーキ	
未解除走行時	188
半ドア防止	17
半ドア走行時	194
VSC 作動	109
ブレーキ	188
メタルトップ半開	194
リバース	88

化粧用ミラー	
（バニティミラー）	136
けん引	185

こ コインボックス..... 133

交換	
エアコンフィルター	179
タイヤ	195, 203
電球	163
ヒューズ	167
ワイヤレスリモコンの電池	176
工具	195

後退灯

W 数	230
電球の交換	165

小物入れ..... 135

コンソールボックス（センター）... 131

コンライト

（自動点灯・消灯装置）	98
-------------------	----

さ サイドエアバッグ..... 58

サブキー..... 16

三角表示板収納スペース..... 143

サンバイザー..... 136

し シート

調整	27
手入れ	148
ヘッドレスト（フロント）.....	31

シートヒーター..... 141

シートベルト

お子様の着用	36
緊急時シートベルト	
固定機構	35
疾患のある方の着用	35
シートベルトガイド	34
シートベルト非着用警告灯	193
清掃・手入れ	149

正しく着用するには.....	33
妊娠中の方の着用.....	35
フロントシートベルト	
プリテンショナー	34
リヤシートベルトホルダー	34
シガレットライター	139
室内灯（インテリアライト）.....	128
自動防眩ミラー	40
シフトレバー	
オートマチックトランス	
ミッション	85
シフトレバーがシフト	
できない	205
シフトポジション	85
シフトレンジ.....	88
シフトレンジダウン制限	
警告ブザー	88
シフトロックシステム	205
車速感応オートドアロック	
システム	20
ジャッキ	
ガレージジャッキ.....	161
車載ジャッキ	195
車幅灯	
W 数	230
操作	98
車両型式.....	230
車両仕様.....	230
充電警告灯.....	189
収納装備一覧.....	129
衝撃感知ドアロック	
解除システム.....	22
初期設定.....	233
助手席シートベルト	
非着用警告灯.....	193

す 水温計.....	93
スイッチ	
AFS OFF スイッチ	99
ECT 走行モード選択スイッチ.....	86
エンジン（イグニッション）	
スイッチ	83
給油口オープナー.....	51
クルーズコントロール	
スイッチ	105
ドアロックスイッチ.....	19
トランクオープナー.....	24
トリップインフォメーション	
切り替えスイッチ	97
パワーウインドウスイッチ	44
ハザードライトスイッチ	182
非常点滅灯スイッチ.....	182
VSC OFF スイッチ	110
フォグライトスイッチ.....	101
メタルトップ開閉スイッチ	47
メーター照度調整スイッチ	94
ライトスイッチ.....	98
ワイパー&ウオッシャー	
スイッチ	102
スカッフプレートライト	127

す スタック	
スタックした	212
ステアリングスイッチ※	
ステアリングホイール	
調整	39
スピードメーター（速度計）.....	93
スペアタイヤ	
空気圧	229
収納場所	195

せ	清掃				
	外装	146			
	シートベルト	149			
	内装	148			
	積算距離計（オドメーター）	93			
	セキュリティシステム				
	エンジンイモビライザー				
	システム	54			
	オートアラーム	55			
	洗車	146			
	前照灯（ヘッドライト）				
	W 数	230			
	操作	98			
	ディスチャージヘッドライトに 関する警告	166			
	前席足元照明	127			
	センターコンソールボックス	131			
そ	走行モードの選択	86			
	速度計（スピードメーター）	93			
	ソケット （アクセサリソケット）	140			
た	タイヤ				
	応急用タイヤ	195			
	空気圧	229			
	空気圧警報システム	151			
	交換	195			
	サイズ	229			
	チェーン	116			
	点検	151			
	パンクした	195, 203			
	冬用タイヤ	115			
	ランフラットタイヤ	203			
	ローテーション	151			
	タコメーター	93			
	正しい運転姿勢	57			
ち	チェーン	116			
	チャイルドシート固定機構付き シートベルト	35			
	チャイルドシート固定機構付き シートベルトに関する警告	38			
	チャイルドシートの取り付け	67			
	駐車場などでキーを預けるとき	25			
	駐車ブレーキ （パーキングブレーキ）	91			
つ	ツール（工具）	195			
て	ディスチャージヘッドライト				
	W 数	230			
	オートレベリングシステム	100			
	ディスチャージヘッドライトに 関する警告	166			
	ライトスイッチ	98			
	手入れ				
	外装	146			
	シートベルト	149			
	内装	148			
	デフォグガー（曇り取り）	126			
	電球（バルブ）の交換	163			
	電動開閉式メタルトップ	47			
	電話スイッチ※				

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

と	ドア	
	ドアカーテシライト	127
	ドアミラー	41
	ドアロックスイッチ	19
	ドアガラス	
	撥水コーティング	147
	パワーウィンドウ	44
	ドアミラー	
	調整	41
	リバース連動機能	42
	盗難防止システム	
	エンジンイモビライザー	
	システム	54
	オートアラーム	55
	トークスイッチ*	
	時計	137
	トラクションコントロール	109
	トランク	
	オープナー	24
	グリップ	25
	トランク内装備	143
	メインスイッチ	24
	ライト	25
	トリップインフォメーション	
	表示	97
	トリップメーター	93
	リセットボタン	93
な	内装の手入れ	148
	ナビゲーションシステム*	
に	荷物固定用フック	143
	荷物を積むときの注意	114

ね	燃料	
	ガソリンスタンドでの情報	250
	給油	51
	燃料計	93
	燃料残量警告灯	193
	容量	226
は	パーキングブレーキ	
	操作	91
	点検基準値	229
	パーソナルライト	128
	灰皿	138
	ハイビーム	
	W数	230
	操作	98
	発炎筒	183
	バックアップライト	
	W数	230
	電球の交換	165
	ハザードライトスイッチ	182
	撥水コーティング	
	(サイドウィンドウ)	147
	バッテリー	
	バッテリーがあがった	207
	冬の前の準備・点検	115
	バニティミラー	136
	バルブ	
	W数	230
	交換	163
	パワーウィンドウ	44
	キーオフ後作動機構	45
	ドアロック連動ドアガラス	
	開閉機能	45
	挟み込み防止機構	45
	ロックスイッチ	44

パンクしたときは	
ランフラットタイヤ.....	203
ランフラットタイヤを除く.....	195
番号灯	
操作.....	98
半ドア防止ブザー.....	17
ハンドル	
オートチルトアウェイ&	
オートリターン機構.....	39
調整.....	39
ひ ビークルスタビリティコントロール	
.....	109
VSC OFF スイッチ.....	110
表示灯.....	95
ヒーター	
オートエアコン.....	120
シートヒーター.....	141
ミラーヒーター.....	126
非常点滅灯スイッチ.....	182
非常用トランク解錠ワイヤー..	132, 213
ヒューズ	
点検、交換.....	167
配置と負荷.....	170
表示灯.....	95
ふ フォグライト	
W 数.....	230
操作.....	101
フック	
けん引フック.....	185
荷物固定用フック.....	143
フューエルキャップ.....	51
冬の前の準備.....	115
ブレーキ	
警告灯 / 警告ブザー.....	188

パーキングブレーキ.....	91
ブレーキアシスト.....	109
パッドインジケーター.....	82
フロアマット.....	142
フロントシート	
SRS サイドエアバッグ.....	58
前後位置 / リクライニング	
連動機構.....	27
調整.....	27
フロントヘッドレスト	
調整.....	31
へ ヘッドライト	
W 数.....	230
操作.....	98
オートレベリングシステム.....	100
ディスチャージヘッドライトに	
関する警告.....	166
ヘッドレスト	
調整.....	31
ほ ホーン（警音器）.....	92
方向指示灯	
W 数.....	230
操作.....	90
本革部分の手入れ.....	148
ボンネット.....	159
ま マイコンプリセットドライビング	
ポジションシステム.....	29
マスターキー.....	16
マット	
フロアマット.....	142

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

み	ミラー		り	リバース警告ブザー	88
	インナーミラー	40		リヤウインドウデフォッガー	126
	ドアミラー	41		リヤシートベルトホルダー	34
	バニティ（化粧用）ミラー	136		リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯	
	ミラーヒーター	103, 126		W 数	230
め	メーター			操作	90
	メーター	93		電球の交換	164
	メーター照度調整スイッチ	94	れ	冷却水	
	メタルトップ	47		濃度・容量	228
	メタルトップが閉まらない			冬の前の準備・点検	115
	ときは	213	ろ	ロービーム	
メンテナンスデータ	226	W 数		230	
		操作		98	
ゆ	ユーザーカスタマイズ機能	231		ディスチャージヘッドライトに	
				関する警告	166
ら	ライセンスプレートライト			ロックレバー	20
	ライトスイッチ	98	わ	ワイドビュードアミラー	42
	ライト			ワイパー&ウォッシャー	
	W 数	230		ウォッシャータンク容量	229
	室内灯	128		操作	102
	電球の交換	164		ワイヤレスドアロック	
	ハザードライト	182		電池交換	176
	非常点滅灯	182		リモコン	17
	フォグライト	101			
	ヘッドライト	98			
	ラゲージカバー	144			
	ランフラットタイヤ	203			
	ライト消し忘れ防止機能	100			
	ライトスイッチ	98			



タイヤがパンクした

P. 195
P. 203

パンクしたときは



エンジンがかからない

P. 204

エンジンがかからないときは

P. 54

エンジンイモビライザーシステム

P. 207

バッテリーがあがったときは



シフトレバーが動かない

P. 205

シフトレバーがシフトできないときは



水温計の針が
赤いゾーンに入った

P. 210

オーバーヒートしたときは



エンジンルームから
蒸気が立ちのぼった



キーを無くした

P. 206

キーを無くしたときは



バッテリーがあがった

P. 207

バッテリーがあがったときは



ドアが施錠できない

P. 19

ドア



ホーンが鳴り出した

P. 55

オートアラーム



ぬかるみや砂地などで
動けなくなった

P. 212

スタックしたときは



メタルトップが
閉まらない

P. 213

メタルトップが閉まらないときは



警告灯が点灯、点滅した

P. 188 警告灯がついたときは



■ 警告灯一覧

	VSC OFF 表示灯 (点滅時) P. 190		SRSエアバッグ/プリテン ショナー警告灯 P. 190
	ブレーキ警告灯 P. 188		半ドア警告灯 P. 193
	ABS & ブレーキアシスト 警告灯 P. 190		エンジン警告灯 P. 190
	AFS OFF 表示灯 (点滅時) P. 190		充電警告灯 P. 189
	油量警告灯 P. 193		運転席シートベルト非着用 警告灯 P. 193
	燃料残量警告灯 P. 193		助手席シートベルト非着用 警告灯 P. 193
	タイヤ空気圧警告灯 P. 190		リヤライト異常警告灯 P. 190
	ウォッシュャー液量 警告灯 P. 193		油圧警告灯 P. 189



警告音が鳴った

警告音一覧

ピー（連続音）	半ドア防止ブザー	P. 17
	ブレーキ警告ブザー	P. 188
	シート警告ブザー	P. 27
ピーピーピー（くり返し）	リバース警告ブザー	P. 88
ポーンポーン（くり返し）	キー抜き忘れ防止ブザー	P. 22
	メタルトップ半開警告ブザー	P. 194
ビビ	シフトレンジダウン制限警告ブザー	P. 88
ビビビビ（くり返し）	VSC 作動警告ブザー	P. 109
ポーン	パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー	P. 188
	半ドア走行時警告ブザー	P. 194

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

トランクオープナー

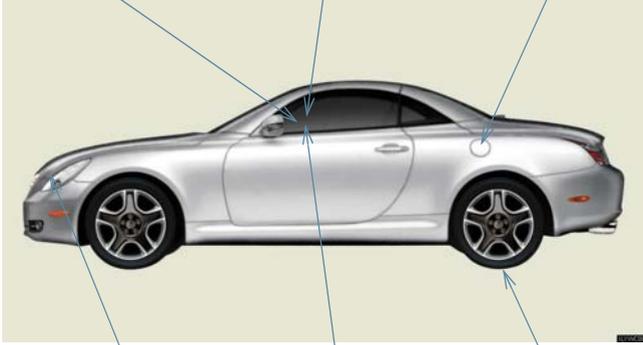
P. 24

ボンネットオープナー

P. 159

給油口

P. 51



ボンネットフック

P. 159

給油口オープナー

P. 51

タイヤ空気圧

P. 229

燃料の容量	75L	
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン	P. 226
タイヤが冷えているときの空気圧	前輪	230 (2.3) kPa (kg/cm ²)
	後輪	230 (2.3) kPa (kg/cm ²)
	応急用タイヤ	420 (4.2) kPa (kg/cm ²)
エンジンオイル容量	オイルのみ交換時	4.6 L
	オイルとフィルター交換時	5.2 L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SM5W-30 (API SM,EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30) ・ SM10W-30 (API SM,EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30) ・ SL5W-20 (API SL,EC、SAE 5W-20) ・ SL10W-30 (API SL,EC、SAE 10W-30)	

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。

